令和２年度文部科学省委託事業
「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール子ども会議
ユネスコスクール子どもフォーラム
実施報告書

2021 年３月

奈良教育大学ユネスコクラブ

令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクール
オンライン近畿地方大会

主 催：文部科学省　日本ユネスコ国内委員会　奈良教育大学　近畿ＥＳＤコンソーシアム
共 催：日本ＥＳＤ学会 第４回 近畿地方研究会実行委員会
後 援：ＥＳＤ活動支援センター　近畿地方ＥＳＤ活動支援センター

プレ大会：11月１日（日）・８日（日）　10時00分～16時30分
本大会　：11月15日（日）　９時30分～16時30分

すべてZoomを使用します。
参加無料！

お申込みは
こちらから→

ユネスコスクール間の児童生徒の交流による取り組み意欲の向上と、授業実践の相互参照による質的向上を図るとともに、次世代の担い手である児童生徒による「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成と、実践者による「ユネスコスクールの現状と課題の整理」を作成し、ユネスコスクール全国大会に提供することで、全国大会の成功に資することを目的として開催します。みなさんといっしょに学び合いましょう。

内容		11月1日(日)	11月8日(日)
		ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅰ	ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅱ
子ども宣言作成	10:00~12:00	ESD子ども会議Ⅰ	ESD子ども会議Ⅱ
実践交流会	13:00~14:30	実践交流会Ⅰ・ESD研究会Ⅰ	実践交流会Ⅱ
現状と課題の整理	14:30~15:30	参加者意見交流会Ⅰ	参加者意見交流会Ⅱ
ESD講演会	15:30~16:30	「Withコロナ時代のESD・学校教育」 元江東区立八名川小学校長 手島　利夫　氏	「ESDの授業づくり」 奈良教育大学特任准教授 大西　浩明　氏

	11月15日(日)
	ユネスコスクール近畿地方大会
指導・助言 文部科学省　国際統括官付　国際戦略企画官 日本ユネスコ国内委員会事務局次長 石田　善顕　氏	
9:30~11:00	ユネスコスクール子どもフォーラム
11:00~12:30	子ども宣言の作成
13:00~14:30	実践交流会Ⅲ・ESD研究会Ⅱ
14:30~15:30	参加者意見交流会Ⅲ
15:30~16:30	「ホールスクールアプローチ」 大牟田市教育長　安田　昌則　氏

○ ユネスコスクール子どもフォーラム
各校における取り組みをまとめた動画を視聴し、参加した児童生徒が意見を交換します。

○ 子ども宣言作成
プレ大会の子ども会議で明らかになった現状や課題をもとに、持続可能な社会のために今後どのように行動していくかについて「子ども宣言」を作成します。

○ 実践交流会・ESD研究会
3つの分科会に分かれて、3日間で計24本の実践・研究発表があります。

○ 参加者意見交流会
実践交流会・ESD研究会の分科会ごとに、参加者相互でユネスコスクールの現状と課題について話し合います。

○ ESD講演会
ESDについて最新のお話をうかがえます。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization　UNESCO Associated Schools

奈良教育大学 Nara University of Education

ユネスコスクール子どもフォーラム参加校

奈良市立都祁小学校（奈良）
神戸市立大沢中学校（兵庫）
立命館守山高等学校（滋賀）
和歌山県立橋本高等学校（和歌山）
奈良教育大学附属中学校（奈良）
京都外大西高等学校（京都）
関西創価高等学校（大阪）

奈良教育大学
なっきょん

実践発表者

	時間	第1分科会	第2分科会	ESD研究会
11月1日（日）	1）13:00～13:30	地域文化を探究する学習 小学校3学年総合的な学習の時間 ー「金魚のまち大和郡山」を事例にー 大牟田市立吉野小学校 島　俊彦	学校と森と水の源流と近畿ESDコンソーシアムのプラットホームでつくるESD遠足の実践 奈良市立平城小学校 新宮　済	地域資源を活用した学びの実現に向けて ～学校と地域が連携する有効性～ 近畿環境パートナーシップオフィス 中澤　敦子
	2）13:30～14:00	ともに学ぶ　応其小学校　～大好きな学校・地域にMINTの風を吹かそう！～ 橋本市立応其小学校 辻脇　昌義	水から(自ら)広げる豊かな学び 箕面こどもの森学園 （NPO法人コクレオの森） 佐野　純	コロナ禍における奈良ユネスコ協会青年部の取組 奈良ユネスコ協会 松浦　慎
	3）14:00～14:30	大沢中学校の取組 神戸市立大沢中学校 小畑　幸一	平和学習　奈良に帰ってきた三角定規 ーまみいちPEACEプロジェクトー 広陵町立真美ヶ丘第一小学校 藏前　拓也	フィリピン残留日本人を通してSDGs16を考える 奈良教育大学 太田　満
11月8日（日）	1）13:00～13:30	パラスポーツって何だろう 奈良市立飛鳥小学校 圓山　裕史	これは使える！　フォトチャット 奈良教育大学附属幼稚園 鎌田　大雅	
	2）13:30～14:00	学校統合に関わる課題について ～ユネスコスクールの継続に向けて～ 大阪市立御幸森小学校 高尾　祐彦	ESDの視点を取り入れた、思考力・判断力・表現力を高める授業の創造 名張市立蔵持小学校 森　恭一	
	3）14:00～14:30	高時のオオサンショウウオを守るために ー ESDの視点をふまえた学習指導 ー 長浜市立高時小学校 足立　康輔	大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動 エリーニ・ユネスコ協会 富澤　裕美子	
11月15日（日）	1）13:00～13:30	生物多様性について考えよう ～小学校2年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より～ 平群町立平群北小学校 中澤　哲也	探究活動促進のための教員データベース作成 ー立命館守山高校　共創探究科の実践ー 立命館守山高等学校 水谷　深志	ESD for 2030にもとづいたESD・SDGsワークショップとコーチング ーネットを使った社会人向け実践報告ー 地域連携プラットフォーム/ESD-J 長岡　素彦
	2）13:30～14:00	春日山をシカが喰う～鹿害から春日山を考えるESD実践 奈良教育大学附属中学校 山本　浩大	関西創価高校の世界市民教育 関西創価高等学校 大月　昇	使命感と成就感を大切にした国語科×総合の教材開発 橋本市立あやの台小学校 中谷　栄作
	3）14:00～14:30	コロナ禍における災害復興支援の可能性 ーネスコスクールの繋がりを活かしてー 奈良教育大学ユネスコクラブ 狗飼菜々子、谷垣徹、佐藤こころ	ユネスコスクールにおける地域連携教育とSDGSについて 和歌山県立橋本高等学校 中嶋　浩晶	概念変化に伴う価値観の変容 大分大学 河野　晋也

- ユネスコスクール以外の方や一般の方でも参加できます。1日のみ、半日のみでも構いません。
- お申し込みは、下記QRコード、または、下記近畿ESDコンソーシアムのホームページの申込フォームからお願いします。

https://kinkiesd.xsrv.jp/

締め切り　10月28日（水）

- 申込みいただいた方に、Zoomに参加するURL・ミーティングID・パスワードをお知らせします。

お問い合わせ：奈良教育大学教育研究支援課　ＥＳＤ事務担当　藤原・西田　Tel：0742(27)9367　Mail：k-soumu@nara-edu.ac.jp

令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会　開催概要

１．目的

学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」の育成が記載されたことより、今後、全国の学校で ESD の理念を活かした教育活動が展開されていく。そのときに好事例となるのがユネスコスクールでの取り組みである。一方で、ユネスコスクールにおける ESD の取り組みの質的向上も課題である。そこで、近畿地方大会においては、ユネスコスクール間の児童生徒の交流による取り組み意欲の向上と授業実践の相互参照による質的向上を図るとともに、次世代の担い手である児童生徒による「子ども宣言」の作成と、教員による「ユネスコスクールの現状と課題の整理」を作成し、全国大会に提供することで、全国大会の成功に資することを目的として開催する。

２．主催　文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、奈良教育大学、近畿 ESD コンソーシアム
共催　日本 ESD 学会第４回近畿地方研究会実行委員会
後援　ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター

３．開催日程　プレ大会Ⅰ　2020 年 11 月１日（日）10:00～16:30
プレ大会Ⅱ　2020 年 11 月８日（日）10:00～16:30
本大会　2020 年 11 月 15 日（日）9:30～16:30

４．会場　Web 会議システム「Zoom」を用いたオンライン開催
（本部：奈良教育大学　次世代教員養成センター２号館多目的ホール　及び　管理棟２階大会議室）

５．プログラム概要

11 月１日（日） ユネスコスクール近畿地方大会 プレ大会Ⅰ	11 月８日（日） ユネスコスクール近畿地方大会 プレ大会Ⅰ	11 月 15 日（日） ユネスコスクール近畿地方大会
		ユネスコスクール 子どもフォーラム
ユネスコスクール子ども会議Ⅰ	ユネスコスクール子ども会議Ⅱ	ユネスコスクール子ども宣言 作成会議
実践交流会Ⅰ ESD 研究会Ⅰ	実践交流会Ⅱ	実践交流会Ⅲ ESD 研究会Ⅱ
参加者意見交流会Ⅰ	参加者意見交流会Ⅱ	参加者意見交流会Ⅲ
ESD 講演会Ⅰ 「With コロナ時代の ESD・学校教育」 元江東区立八名川小学校長 手島　利夫　氏	ESD 講演会Ⅱ 「ESD の授業づくり」 奈良教育大学特任准教授 大西　浩明　氏	ESD 講演会Ⅲ 「ホールスクールアプローチ」 大牟田市教育長 安田　昌則　氏

令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会
「ユネスコスクール子ども会議・子ども宣言作成会議」開催要項

◇ **目的**

学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」の育成が記載されたことより、今後、全国の学校で ESD の理念を活かした教育活動が展開されていく。そのときに好事例となるのがユネスコスクールでの取り組みである。一方で、ユネスコスクールにおける ESD の取り組みの質的向上も課題である。そこで、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会「近畿ユネスコスクール子ども会議」においては、次世代の担い手である児童生徒がオンラインで集い、地域社会や学校が抱える課題の解決に向けた取り組みについて議論し、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成する。これを全国大会に提供することで、全国大会の成功に資することを目的として開催する。

◇ **日時**　第１回（ユネスコスクール子ども会議Ⅰ）　2020 年 11 月 1 日（日）10:00～12:00
第２回（ユネスコスクール子ども会議Ⅱ）　2020 年 11 月 8 日（日）10:00～12:00
第３回（ユネスコスクール子ども宣言作成会議）2020 年 11 月 15 日（日）11:00～12:30

◇ **会場**　Web 会議システム「Zoom」によるオンライン会議

◇ **主催**　文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、奈良教育大学、近畿 ESD コンソーシアム

◇ **協力**　奈良教育大学ユネスコクラブ

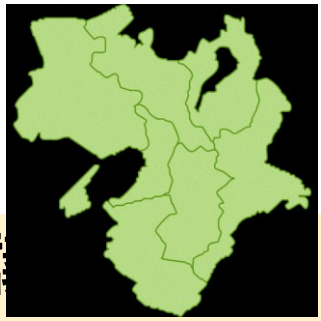
◇ **対象**　近畿地方のユネスコスクールに通う児童生徒
（児童会・生徒会・ユネスコクラブ等の、ESD・ユネスコスクール活動に関わる児童生徒）

◇ **プログラムの概要**

事前学習 **作文の募集**	○「近畿ユネスコスクール子ども宣言」作成に向けた作文募集 テーマ：持続可能な社会づくりについて日ごろ感じていること、 解決のために自分ができること、挑戦したいこと。 ○参加者に向けた事前学習動画の配信 ・ユネスコスクール、ESD について ・SDGs、地球や地域社会が抱える課題について
第１回 **（子ども会議Ⅰ）**	○普段学校で取り組んでいること、課題に感じていること ○課題解決に向けての現状把握（できていること、できていないこと） ○事前に募集した作文の内容を知る
第２回 **（子ども会議Ⅱ）**	○事前に募集した作文の内容を知る ○「知る機会を自分たちの力で作る」「行動化を促す」ためにユネスコスクールの私たちができること ○宣言作成に向けてキーワードを考える
第３回 **（子ども宣言作成会議）**	○宣言案の改良 ○宣言を各学校で広げるためのアクションプラン ○全体を通した総括

近畿地方各地の
ユネスコスクールから
仲間が大集合！

令和２年度
ユネスコスクール
オンライン近畿地方大会



近畿ユネスコスクール子ども会議

近畿地方には141校のユネスコスクールがあります（2019年11月現在）。近畿ユネスコスクール子ども会議では、近畿地方各地のユネスコスクールに通う仲間がオンラインで集い、持続可能な学校・地域社会・世界づくりに向けた取り組みについて一緒に考えます。第3回の11月15日（日）は「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成して、12月に開催予定のユネスコスクール全国大会に提出します。皆さんの積極的な参加をお待ちしています！

当日参加できない方も、事前に作文等を提出して、子ども宣言へのアイディアを出していただけます。
ぜひ作文等にも取り組んでみてください！詳細は別紙チラシをご覧ください。

方 法

Web会議システム「Zoom」による オンライン会議
（各家庭からご参加ください）

対 象

近畿地方のユネスコスクールに通う 児童生徒
（児童会・生徒会・ユネスコクラブ等の、ESD・ユネスコスクール活動に関わる児童生徒）

参加費

無料
（通信にかかる費用は各自ご負担ください）

定 員

40名
（全日程参加できる方を優先いたします）

日 時

※1日だけの参加も可能です

第１回　子ども会議Ⅰ
11月1日（日）10:00～12:00

第２回　子ども会議Ⅱ
11月8日（日）10:00～12:00

第３回　子ども宣言作成会議
11月15日（日）11:00～12:30

参加申し込みはこちらから！
＜申し込み締め切り＞
10月16日（金）

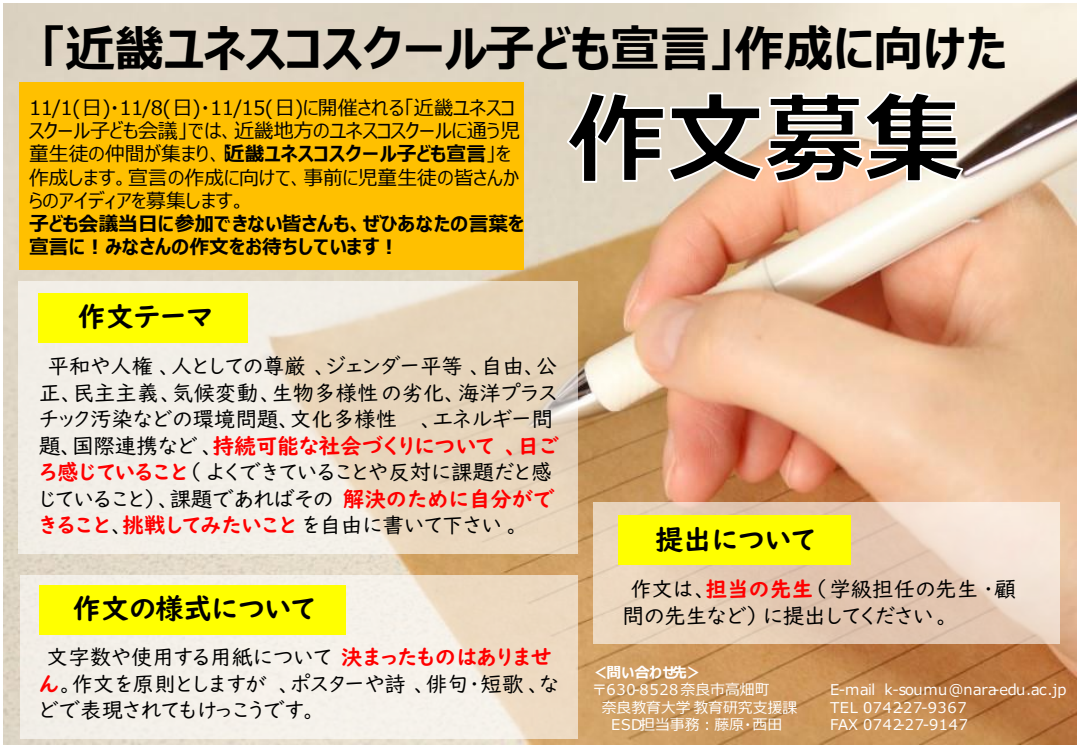
主催　奈良教育大学・近畿ESDコンソーシアム
共催　日本ESD学会近畿地方研究会実行委員会
後援　ESD活動支援センター・近畿地方ESD活動支援センター（予定）
協力　奈良教育大学ユネスコクラブ

本事業は、令和２年度文部科学省「ユネスコ未来共創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」の委託を受けて開催いたします。

＜問い合わせ先＞
奈良教育大学教育研究支援課
ESD事務担当：西田・藤原
TEL ： 0742 (27) 9177
Mail ： k-soumu@nara-edu.ac.jp
Web ： https://kinkiesd.xsrv.jp/

「近畿ユネスコスクール子ども宣言」作成に向けて、近畿地方のユネスコスクール等の児童生徒を対象に、作文等を募集したところ、全 11 校・337 名の児童生徒から作品が寄せられた。

	学校名	学年	作品種別	人数
小学校	名張市立名張小学校	５年生	俳句	109
	姫路市立安富北小学校	３年生	作文	1
		４年生	作文	1
		５年生	プレゼンテーション	15
		６年生	プレゼンテーション	5
	大牟田市立吉野小学校	５年生	作文	18
	京都市立安朱小学校	５年生	作文	12
義務教育学校	和歌山市立伏虎義務教育学校	４年生	俳句	73
		学年不明	作文	15
		学年不明	ポスター	13
		９年生	作文	5
中学校	尼崎市立成良中学校	３年生	作文	1
		１年生	動画	4
		２、３年生	動画	13
	彦根市立西中学校	学年不明	作文	1
	奈良市立興東館柳生中学校	１年生	短歌・俳句	18
		２年生	作文・短歌・俳句	11
		３年生	作文・短歌・俳句	9
	奈良教育大学附属中学校	２年生	作文	6
高校	奈良県立高田高等学校	学年不明	作文	5
大学	奈良教育大学ユネスコクラブ	１、２回生	作文	2
合計（11 校）				337



【第１回】ユネスコスクール子ども会議Ⅰ	
日時	2020 年 11 月 1 日（日）10:00～12:00
会場本部	奈良教育大学　次世代教員養成センター２号館　多目的ホール
学生スタッフ	西田　有佳里　　岩城　雄大　　水名口　愛梨　　佐藤　こころ 藤本　尋巳　　池田　千晴　　坂元　亜衣　　中家　麻弥 木下　結等　　谷垣　徹　　（計 10 名）
参加者	関西創価高等学校　４名

○開会行事（開会挨拶：奈良教育大学学長　加藤久雄）

■アイスブレーキング（坂元・藤本・西田）
・自己紹介（事前課題ワークシートの上半分）
・セブンじゃんけん

■グループワーク①（ワークシート下半分の共有）
＊あなたが学校で普段取り組んでいること
＊学校・地域・世界についてあなたが課題だと思っていること【共通点探し】

■グループワーク②
＊課題の解決に向けて、何ができていて、何ができていない？
・「より良い学校作り→より良い地域社会作り→より良い地球作り」という視点

○事前に募集した作文の分析結果を紹介する（池田・岩城・西田）
＊具体的な諸課題＋解決方法（アクション）について（岩城）←SDG1-16 の視点
＊実施手段（パートナーシップについて）（池田）　　←SDG17 の視点
＊「子ども宣言」の構成について（西田）

■グループワーク③（子ども宣言の中身を考える）
・作文の共有を聞いての感想
・「持続可能な社会づくり」のために、私たちができることは？
・近畿ユネスコスクールの仲間で繋がることで、何ができる？

グループワーク①「普段学校で取り組んでいること、学校・地域・世界で課題だと思っていること」

グループ①

・経済的な格差、人権、人との違いのとらえ方（差別につながる）

・「分かる」と「使える」の違い

・ESD を知る機会が少ない（地域や学校で広がっていけば）

グループ②

・自分の専門性を生かして自分たちでできること、情報発信や行動

・知識を得るだけでなく自分たちでできることへの取り組み

・知るだけではなく行動に移せるかが課題

グループ③

・人権についての取り組み

・問題を知る、自分ができる身近なことから取り組む（いじめの問題など）

グループワーク②「課題の解決に向けて、何ができていて、何ができていない？」

グループ②

・知ろうとしないと何もできない

・世界の諸問題に関心がある人を増やす

・問題を身近に感じる教育

グループ④

・ユネスコスクールは学ぶことができている

・仲間内でなく外部に広げる、SNS の活用

・行動化するのに何ができるかを考える

グループ①

・偏見や違いは小さいころからの積み重ね

・教育の場で人は違うということを教える

グループワーク③「持続可能な社会づくりのために、ユネスコスクールの私たちができること」

グループ③

・環境と人権

・話し合いの場を持つ

・当たり前を疑う

・身近なところから始める（話し合いの場を持つ）

グループ①

・ユネスコスクール内でのつながりを強める、それを広げる（SNS の活用）

グループ②

・仲間になろう

・「しましょう」語尾を変える

・仲間のつながりを強め、輪を広げる

・若者から大人への情報発信

令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール子ども会議

【第1回】

2020年11月1日(日)10:00～12:00

関西創価高校
奈良教育大学

11月1日日曜日 日直 なっきょん

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール子ども会議

10時の開会までしばらくお待ちください。

【開始までのお願い】

- 表示名の変更をお願いします。
  - 参加生徒の皆さん →「★氏名(学校名)」
  - オブザーバーの皆さん→「氏名(所属)」
- カメラはOFF・マイクはミュートでお待ちください。
- 画面キャプチャ、レコーディングなどはご遠慮ください。

11月1日日曜日 日直 なっきょん

	関西創価高校	奈良教育大学ユネスコクラブ
1班	南雲 良明 柳本 清美 大澤 奈菜美	西田 有佳里 岩城 雄大
2班	谷野 美由紀 木下 和泰 佐藤 直樹	水名口 愛梨 佐藤 こころ
3班	広瀬 勝利 小宮山 明子	藤本 尋巳 池田 千晴
4班	佐藤 優希 井尻 茜	坂元 亜衣 中家 麻弥 木下 結等

11月1日日曜日 日直 なっきょん

ユネスコスクールって？

- 「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」
- ユネスコの理念を実現するための教育
- ESD(持続可能な開発のための教育)
- 世界182か国に11500校、
- 日本全国に1120校、近畿地方に141校

11月1日日曜日 日直 なっきょん

UNESCO … 国際連合教育科学文化機関

ユネスコ憲章(前文) 1945年採択 1946年創設

この憲章の当事国政府は、この国民に代わって次のとおり宣言する。戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教義を広めることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って、果たさなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取り決めのみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和が失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の十分で平和な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに研究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

11月1日日曜日 日直 なっきょん

持続不可能な社会って？【現代的な諸課題】

11月1日日曜日 日直 なっきょん

11月1日日曜日 日直 なっきょん

持続可能な開発

Sustainable Development

- 現代社会のニーズを満たしつつ、将来世代のニーズも満たす開発(世代内／世代間の公正)
- 社会の問題を自分ごととして捉え、自分で考え行動できる人

「持続可能な社会づくり」のために
ユネスコスクールの私たちができることは？

11月1日日曜日 日直 なっきょん

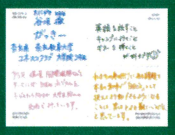
プログラムの予定

11月1日(日)	11月8日(日)	11月15日(日)
10:00~12:00 (9:45受付開始) 子ども会議 1日目	10:00~12:00 (9:45受付開始) 子ども会議 2日目	11:00~12:30 子ども宣言 作成会議
		9:30~11:00 (9:00受付開始) ESD子ども フォーラム

全て、Zoomを用いたオンライン会議で行います。

11月1日日曜日 日直 なっきょん

グループワーク①
(ワークシート下半分の共有)



＊ あなたが学校で普段
取り組んでいること
＊ 学校・地域・世界について
あなたが課題だと思っていること

全体に戻ってきて、各グループから報告してもらいます。

11月1日日曜日 日直 なっきょん

グループワーク②

＊ 課題の解決に向けて、
何ができていて、何ができていない？

より良い学校づくり → より良い地域づくり → より良い地球づくり

全体に戻ってきて、各グループから報告してもらいます。

11月1日日曜日 日直 なっきょん

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

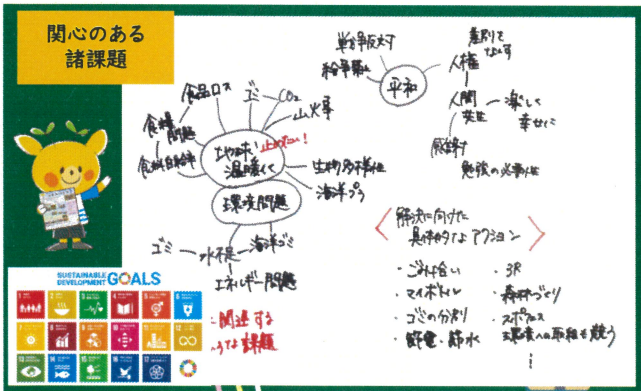
ユネスコスクール子ども会議

休憩中

後半は11時10分に開始します。

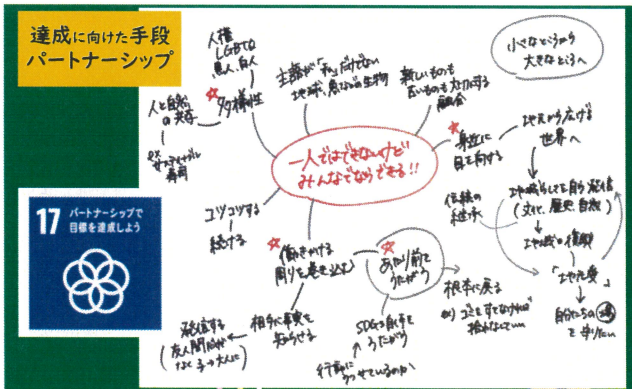
11月1日日曜日 日直 なっきょん

関心のある諸課題



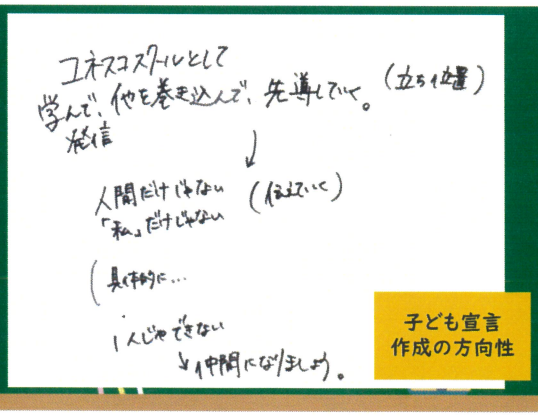
11月1日日曜日 日直 なっきょん

達成に向けた手段 パートナーシップ



11月1日日曜日 日直 なっきょん

子ども宣言 作成の方向性



11月1日日曜日 日直 なっきょん

グループワーク③

＊ 作文の共有を聞いての感想
＊ 「持続可能な社会づくり」のために、
ユネスコスクールの私たちができることは？
＊ 近畿のユネスコスクールの仲間が
繋がることで、何ができる？

全体に戻ってきて、各グループから報告してもらいます。

11月1日日曜日 日直 なっきょん

【第２回】ユネスコスクール子ども会議Ⅱ	
日時	2020 年 11 月 8 日（日）10:00～12:00
会場本部	奈良教育大学　次世代教員養成センター２号館　多目的ホール
学生スタッフ	西田　有佳里　　岩城　雄大　　佐藤　こころ　　池田　千晴 中家　麻弥　　木下　結等　　仲村　幸奈　　川田　大登 松岡　花　　谷垣　徹　　（計 10 名）
参加者	関西創価高等学校　　８名 奈良教育大学附属中学校　４名　　（計 12 名）

○開会行事（開会挨拶：奈良教育大学副学長　高橋豪仁）

■アイスブレーキング（佐藤・木下・中家）

・自己紹介（事前課題ワークシートの上半分）＋「実はわたし…」

・メンバーの他己紹介クイズ

■グループワーク①（ワークシート下半分の共有）

①あなたが学校で普段取り組んでいること）

②学校・地域・世界についてあなたが課題だと思っていること【共通点探し】

○事前に募集した作文の分析結果を紹介する（川田・池田）

近畿各地のユネスコスクールから 11 校、337 枚の作文を分析

＊具体的な諸課題＋解決方法（アクション）について（岩城）←SDG1-16 の視点

＊実施手段（パートナーシップについて）（池田）　←SDG17 の視点

○前回の議論の共有（谷垣）

・関心のある課題…【環境】【人権】【平和】

・「知る機会を自分たちの力でどう作るか」「どのように行動化を促すか」

■グループワーク②

・「知る機会を自分たちの力で作る」「行動化を促す」ためにユネスコスクールの私たちができることは？

○既存の宣言の紹介（谷垣）

2014 年「ユネスコスクール世界大会 Student（高校生）フォーラム共同宣言」

■グループワーク③

＊子ども宣言に入れるべきキーワードを考える。

○外部評価者からのコメント（柴尾智子氏）

グループワーク①「普段学校で取り組んでいること、学校・地域・世界で課題だと思っていること」

①GRIT の取り組み、奈良めぐり、核兵器・戦争・平和
人がやりたくないことを進んでする 食品ロス
人権、違いの認識
②奈良めぐり、GRIT、授業でグループ活動、クラスで発表
災害復興支援、教育、貧困、差別、当事者意識を持つ
それぞれの問題がつながっている
③意識と行動が大事　分かると行動に大きな開きがある　周りに広げる
エコ活動（エコバッグ持参）
④環境活動、地域のフィールドワーク
知った上での行動、身近に感じやすいところから思考と行動
人権問題（コロナ禍の中）

グループワーク②「知る機会を自分たちの力でどう作るか」「どのように行動化を促すか」

④ 知る機会　ポスターを学校内、公共の場で掲示
ユネスコスクールへの参加が少ない、学校全体に情報発信
自分の行動を知らせる、見直す、地域清掃・節水
③SNS で発信　ポスター作成　有名人や漫画の活用
行動化　理解してから行動へ　理解につながる情報発信　自分から行動してから周りに
②ポスターを張る　ポスターを作る側になってもらう
SDGs を目にする機会が増えた、何気なく見えるようにする
一人の行動化がこの結果になるということを明確に
ユネスコスクールのつながりを
①自分の身近なところから、行動化や知る機会に
大きなグループから小さなグループへ、その共有化
自分たちが理解したうえで広げる
紙媒体の活用、インパクトのある発言、小さなところからの発信、当たり前を作る

グループワーク③「宣言に入れるべきキーワード」

②一人じゃない　みんなで
みんな仲間　（同じ地球人）学び続ける姿勢で回りを巻き込む 多様性と尊重
私たちは微力だが無力ではない
③知る機会　正しい理解　納得　行動へ
積極的な行動・活動　子どもから大人への発信　責任　自分がする　広める
協力　根気強くあきらめず
④当たり前を疑う　ユネスコの輪　協働
自分が行動する　自分を疑う
つながりから広める
①行動　つながりや輪　教育と対話　「～をしましょう」（語尾）

令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール子ども会議

【第2回】

2020年11月8日（日）10:00～12:00

関西創価高校
奈良教育大学附属中学校
奈良教育大学ユネスコクラブ

11月1日日曜日

日直 なっきょん

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール子ども会議

10時の開会までしばらくお待ちください。

【参加生徒のみなさん】
- 表示名の変更をお願いします。「★氏名_ニックネーム（学校名）」
- ワークシートを準備しておいてください。まだの人は、どんな紙でも良いので、4つに折って記入してください。

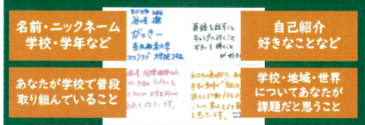
【オブザーバーのみなさん】
- 表示名の変更をお願いします。「氏名（所属）」
- カメラはOFF・マイクはミュートでお待ちください。
- 画面キャプチャ、レコーディングなどはご遠慮ください。

名前・ニックネーム 学校・学年など

自己紹介 好きなことなど

あなたが学校で普段取り組んでいること

学校・地域・世界についてあなたが課題だと思うこと



≪表示名の変更方法≫
画面下部「参加者」をクリック
→自分のアカウント名の右側「詳細」
→「表示名の変更」

11月1日日曜日

日直 なっきょん

	関西創価高校	奈良教育大学附属中学校	奈良教育大学ユネスコクラブ
1班	南雲 良明 柳本 清美 大澤 奈菜美	高田 智弘	西田 有佳里 木下 結等
2班	谷野 美由紀 木下 和奏 佐藤 直樹	布谷 夏利奈	池田 千晴 佐藤 こころ
3班	広瀬 勝利 矢野 瑞希 山田 幸栄	本梅 綾乃	仲村 幸奈 川田 大登
4班	佐藤 優希 小宮山 明子 井尻 茜	古賀 盛寛	中家 麻弥 松岡 花

11月1日日曜日

日直 なっきょん

プログラムの予定

11月1日（日）	★11月8日（日）★	11月15日（日）
10:00～12:00 （9:45受付開始） 子ども会議 1日目	10:00～12:00 （9:45受付開始） 子ども会議 2日目	11:00～12:30 子ども宣言 作成会議
		9:30～11:00 （9:00受付開始） ESD子ども フォーラム

全て、Zoomを用いたオンライン会議で行います。

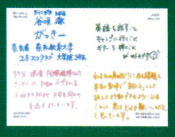
11月1日日曜日

日直 なっきょん

グループワーク①
（ワークシート下半分の共有）

＊ あなたが学校で普段取り組んでいること

＊ 学校・地域・世界について あなたが課題だと思っていること



全体に戻ってきて、各グループから報告してもらいます。

11月1日日曜日

日直 なっきょん

「近畿ユネスコスクール子ども宣言」作成に向けた 作文募集

11/1(日)・11/8(日)・11/15(日)に開催される「近畿ユネスコスクール子ども会議」では、近畿地方のユネスコスクールに通う児童生徒の仲間が集まり、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成します。宣言の作成に向けて、事前に児童生徒の皆さんからのアイディアを募集します。
子ども会議当日に参加できない皆さんも、ぜひあなたの言葉を宣言に！みなさんの作文をお待ちしています！

作文テーマ

平和や人権、人としての尊厳、ジェンダー平等、自由、公正、民主主義、気候変動、生物多様性の劣化、海洋プラスチック汚染などの環境問題、文化多様性、エネルギー問題、国際連携など、持続可能な社会づくりについて、日ごろ感じていること（よくできていることや反対に課題だと感じていること）、課題であればその解決のために自分ができること、挑戦してみたいことを自由に書いて下さい。

作文の様式について

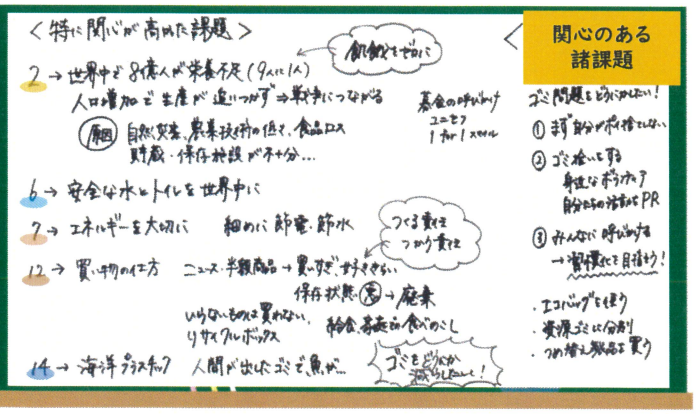
文字数や使用する用紙について決まったものはありません。作文を原則としますが、ポスターや詩、俳句・短歌、などで表現されてもけっこうです。

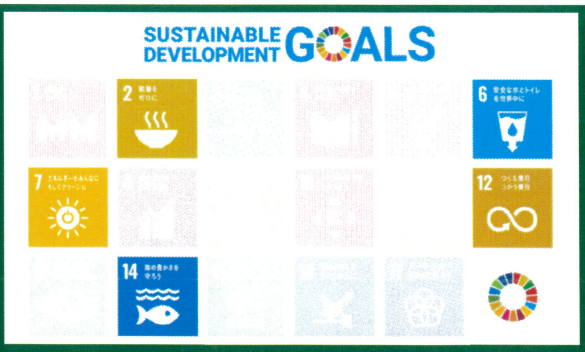
提出について

作文は、担当の先生（学級担任の先生・顧問の先生など）に提出してください。

<問い合わせ先>
〒630-8528 奈良市高畑町
奈良教育大学 教育研究支援課
ESD事務事業：藤原・西田
E-mail k-soumu@nara-edu.ac.jp
TEL 0742-27-9367
FAX 0742-27-9147

近畿各地のユネスコスクールから **11校 337枚** の作文が集まりました！





<特に関心が高めた課題>

2 → 世界中で8億人が栄養不足（9人に1人）
人口増加で生産が追いつかず ⇒ 戦争につながる
原因 自然災害、農業技術の低さ、食品ロス
貯蔵・保存施設が不十分…
飢餓をゼロに
基金の呼びかけ
ユニセフ
1 for 1 スマイル

6 → 安全な水とトイレを世界中に

7 → エネルギーを大切に　細めに節電・節水

12 → 買い物の仕方　ニュース・半額商品 → 買いすぎ、好きできない
保存状態 悪 → 廃棄
いらないものは買わない、
リサイクルボックス
給食、寄宿で食べのこし
つくる責任
つかう責任

14 → 海洋プラスチック　人間が出したゴミで魚が…
ゴミをどうにか減らしたいと！

関心のある諸課題

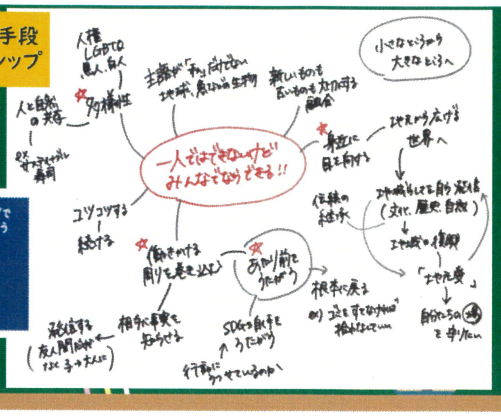
ゴミ問題をどうにかしたい！
① まず自分がポイ捨てしない
② ゴミ拾いをする
身近なボランティア
自分たちの活動をPR
③ みんなに呼びかける
→ 習慣化を目指そう！
・エコバッグを使う
・資源ゴミに分別
・つめ替え製品を買う

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

11月1日日曜日

日直 なっきょん

達成に向けた手段 パートナーシップ



17 パートナーシップで目標を達成しよう

11月1日日曜日 日直なっきょん

環境　人権　平和

関心がある人を増やさないと！ 多くの人に身近な問題に！
知る機会を自分たちの力でどう作るか

「知る」➡「行動する」のギャップ
どのように**行動化**を促すか

そのために
ユネスコスクールの私たちができることは？

11月1日日曜日 日直なっきょん

グループワーク②

関心がある人を増やさないと！ 多くの人に身近な問題に！
知る機会を自分たちの力でどう作るか

「知る」➡「行動する」のギャップ
どのように**行動化**を促すか

そのためにユネスコスクールの私たちができることは？

全体に戻ってきて、各グループから報告してもらいます。

11月1日日曜日 日直なっきょん

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会
ユネスコスクール子ども会議

休憩中

後半は11時25分に開始します。

11月1日日曜日 日直なっきょん

ユネスコスクール
世界大会
Student（高校生）
フォーラム共同宣言

2014年11月7日

世界は、地球的規模の諸問題と各地域における諸問題を解決しようと多大な努力を続けてきました。戦争、紛争、環境、文化、エネルギー、食について着実な進歩を遂げてきましたが、今日にいたっても私たちはまだ多くの問題に直面しています。そのため私たちASPnetの高校生は、様々な地域の背景を考慮しつつ、世界の重要な諸問題について更に知るために、学び合いの努力をしています。

2005年に始まった「国連ESDの10年」は最終年を迎えました。この10年間、私たちは、学び合いの大切さを知り、地球的諸問題に共同して立ち向かう姿勢を強めることを学びました。これは、世界の持続可能な発展の成功にはESDが必要欠くべからざるものであるという明確な信念のもとに達成されました。その結果、世界は私たち若者世代によるこれら諸問題への参画を、これまでにも増して期待しているように見えます。

2014年11月の今日、新しいESD世代の代表として世界32ヶ国から私たち高校生はここ日本の岡山市に集いました。「日常生活と社会において持続性を阻害しているものは何か」、「持続性を促進するために重要なものは何か」というテーマのもとで、私たちは身近な問題から話し合いを始めました。

その後、発展とは何かという話し合いにより、私たちはその多様性を確認しました。

私たち高校生が先頭に立って、環境、文化、伝統、そして世代や国を越えて人を尊重していくという意見が述べられました。私たちは責任あるかたちで、様々な目に見える活動により出来る限りその輪を広げていくことが必要です。またそのためには、一人ひとりが自分の生活の中で小さな行動から始めることが大切です。たとえば、友達との協力やリサイクル運動、ボランティア活動への参加をとおして、ESDに興味・関心を持てるような楽しい学びの場をより多くの人に紹介していくことができます。そしてこのことは、若者の独創的な企画によってESDや若者世代への興味を喚起することにもなるでしょう。私たちは共に行動できることがたくさんあることに気付きました。

これらのディスカッションに基づいて、高校生である私たちが現在と未来においてできることとなすべきことを模索して意見を交換しました。その結果、合意にいたったことは次の5点です。

ユネスコスクール世界大会Student（高校生）フォーラム共同宣言

1. 自分たちの力は無力ではないにせよ限られています。しかし共に助け合い、持続可能性について学び[illegible]大切にして、ESDについ[illegible]きましょう。
2. 私たち高校生は、一人ひとりが地球に生きる一員としての自覚を持ち、環境と周りの自然を意識していきましょう。長期的な視点にたって、学校でESDが教えられるようにな[illegible]明確にとりましょう。
3. 私たち一人ひとりが責任をもって[illegible]てることで、様々な生活様式と文化と意見を共有[illegible]しょう。そうすることで、学び[illegible]しょう。
4. つながり合い[illegible]ぶことで、平和と人権と、教育によって個人が成し遂げられるものを知りましょう。このことには男女平等と人権と平和と啓発が含まれます。これら全てにおいて、私た[illegible]たす重要な役割を意識しましょう。
5. 上記の全てを私た[illegible]識して、個[illegible]るよう全力を尽くしましょう。

学び合う機会　発信　責任ある行動　つながり　尊重　知的な刺激　コミュニケション　教育　全員　明確な目標

11月1日日曜日 日直なっきょん

グループワーク③

＊「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成に向けて、**宣言に入れるべきキーワード**を考えよう。

関心がある人を増やさないと！ 多くの人に身近な問題に！
知る機会を自分たちの力でどう作るか

「知る」➡「行動する」のギャップ
どのように**行動化**を促すか

全体に戻ってきて、各グループから報告してもらいます。

11月1日日曜日 日直なっきょん

ユネスコスクール子ども会議の予定

11月1日（日）	11月8日（日）	11月15日（日）
子ども会議 1日目	子ども会議 2日目	子ども宣言 作成会議
関西創価高校	関西創価高校	関西創価高校
	奈良教育大学 附属中学校	奈良教育大学 附属中学校
		神戸市立大沢中学校
		奈良市立都祁小学校
奈良教育大学 ユネスコクラブ	奈良教育大学 ユネスコクラブ	奈良教育大学 ユネスコクラブ

11月1日日曜日 日直なっきょん

【第３回】ユネスコスクール子ども宣言作成会議	
日時	2020 年 11 月 15 日（日）9:30～11:00
会場本部	奈良教育大学　管理棟２階　大会議室
学生スタッフ	西田　有佳里　　佐藤　こころ　　池田　千晴　　中家　麻弥 木下　結等　　川田　大登　　松岡　花　　岩城　雄大 後藤　旭　　市川　真理瑛　　川西　良海　　谷垣　徹　　（計 12 名）
参加者	関西創価高等学校　　８名 京都外大西高等学校　　４名 立命館守山高等学校　　３名 和歌山県立橋本高等学校　５名 奈良教育大学附属中学校　５名 神戸市立大沢中学校　　12 名 奈良市立都祁小学校　　23 名　　（計 60 名）

○開会行事（開会挨拶）

・奈良教育大学学長　加藤　久雄

・文部科学省　国際統括官付国際戦略企画官　日本ユネスコ国内委員会事務局次長　石田　善顕　氏

■アイスブレーキング（後藤・池田）

・ジェスチャーゲーム　　・口パクゲーム

◎発表①　京都外大西高校（7:46）

◎発表②　奈良教育大学附属中学校　西野さん「ESD の教科化を目指して」（5:42）

○【全体】発表を聞いての感想共有・質疑応答

○講評 or 質問（柴尾智子氏）

◎発表③　和歌山県立橋本高校「高齢者の居場所づくり」（8:53）

◎発表④　奈良市立都祁小学校「素敵いっぱい　都祁の郷」（9:40）

○【全体】発表を聞いての感想共有・質疑応答

○講評 or 質問（柴尾智子氏）

◎発表⑤　立命館守山高校「World School」（10:00）

◎発表⑥　関西創価高校（5:42）

◎発表⑦　神戸市立大沢中学校「大沢守ろう」（8:37）

■グループワーク

・発表を聞いての感想共有・質疑応答

○全体講評

・奈良教育大学学長　加藤　久雄

・文部科学省　国際統括官付国際戦略企画官　日本ユネスコ国内委員会事務局次長　石田　善顕　氏

【発表①】京都外大西高校	
・関西模擬国連 12 高校、250 人以上が参加 ・京都外大ユネスコクラブ 祇園祭でリユース食器を用いたゴミゼロ活動 60 トン→34 トン ・文化祭でのエコステーション・リユース食器の使用と使用後の分別 ・楽しんで行うこと！	【質疑応答】 Q：３日間にわたる模擬国連はいろんな学校から参加しているのですか？ A：他の学校に参加してもらい、組み合わせをして小グループになってディベートをしています。 【講評】 ・ランチミーティング始まった活動が祇園祭で大きく展開していることに感心した。 ・Thinking Globally Acting Locally 現在進行形なので迫力があった。
【発表②】奈良教育大学附属中学校　西野心咲さん「ESD の教科化を目指して」	
・教育は 1 番大事。人の価値観を大きく変えるものだから。 ・ESD で生きていく力、社会人基礎力を学ぶことができる。 ・質の高い教育は必要であるが、それに気づいていない人が世の中にはたくさんいる。 ・未来のことだけでなく、今のことも考える持続可能な社会を意識する ESD や SDGs も必要で、まずそれを多くの人に伝えるべきだ。 ・日本から、私たちから始めて世界へ発信していかなければいけない。	【質疑応答】 Q：教科化しようとするなら、新たにお金や建物が必要になるのでは？ A：世界中の人々が ESD や SDGs に関心を持ってもらえたら、寄付が集まると思う。 Q：ESD をどうやって広めていけばよいのか？ A：ニュースなどで ESD や SDGs をとりあげたりしたり、各学校で周知してもらうと良い。 【講評】 ・今、自分が受けている教育がどういうことで、どんなインパクトがあるのかを俯瞰できている。いわゆる「メタ認知」ができているということに驚いた。 ・どんな教育が行われているのか関心を持った。
【発表③】和歌山県立橋本高校「高齢者の居場所づくり」	
○地域での活動に参加したくない人が半数以上あるのはなぜか？ →参加したくても移動距離が遠く参加できない ○高齢者の居場所づくりは空き家カフェでは実現できない　→ 憩いのカフェに変更 日中：高齢者の居場所 夕方：学生の立ち寄る場所 夜　：子ども食堂 学校プラットフォーム化の考え方 ばらばらに取り組まれていた活動をつなぐ 交流の場→住みやすい町→住民が増える→橋本市のお金が増える→幸せの連鎖 橋本市の補助金に応募する	【質疑応答】 Q：カフェは学校全体の活動ですか？ A：総合的な探究の時間で取り組んでいます。 Q：食材の費用はどうされますか？ A：子ども食堂では地産地消で行うので、食材費はかからない。 【講評】 ・地域の課題に真剣に向き合っている ・地域の人の意見を聞いて柔軟に行動を変化していることに感心した ・補助金申請も地域の方との連携が感じられた

【発表④】奈良市立都祁小学校「素敵いっぱい　都祁の郷」	
・都祁の水・水事情とルワンダ（JICA）の水事情の比較から、水を用いた事業を起こし、そのお金で途上国を支援したい。 ・水温、化学調査　：感覚と科学的調査結果の融合 ・都祁の水にあうお茶（地域の産業）を選ぶ活動、ポップ作り	【質疑応答】 Q：授業の中で SDGs を学んでいると思うが、地域との交流、現場に行っての水、水問題を通して世界の課題に取り組んでおられるのですか？ A：水を中心にやっています。自分たちで水を採取してきて調べています。 【講評】 ・映像の迫力に驚いた ・多くの人の協力 ・五感と科学 地元とルワンダ など、ESD らしい活動だった
【発表⑤】立命館守山高校「World School」	
・世界中の学校をつなぐアプリの開発 ・国際問題の学びで主体的に取り組むことが課題 ・ユネスコスクールの８割　ネットワークを使えてない、交流を準備する時間がない、相手校を見つけるのに時間がかかる 時間と労力が問題 →マッチングアプリ：直接相手校とのやり取りが可能に、掲示板システムがポイント ・現地との中継によるリアルタイム授業が可能になる 様々な人と交流でき、探究心を育てる	【感想】 ・いろいろな場面に使えそうだと思った 【講評】 ・データを分析しての活動 ・解決策を提示していた
【発表⑥】関西創価高校	
・リサイクル活動 ユニクロ、使い捨てコンタクトレンズ、不要本の回収 ・釣り上げた魚の肥料化 ・グローバルシティズンシップセミナー ・国内フィールドワーク 東京・広島・東北 ・海外フィールドワーク ・ラーニングクラスター 高校生宣言の作成 ・My SDGs に取り組む ・一人ひとりが地球の課題を自分ごととして捉え、活動していく	【講評】 ・若者がもっと SDGs に取り組んでいかなければならない、日本の若者も世界的に活動してほしいという意見があるが、２つの高校の模擬国連の発表があり、このような活動を広げていけたらと思った。
【発表⑦】神戸市立大沢中学校「大沢守ろう」	
・多様な地域の方々との活動 ・SDGs を知る発表会 ・トライやる・アクション 　防災・減災教育、地域の方との連携、ハザードマップ作り、防災・減災フィールドワーク 　「災害と共存していく」	【講評】 ・学校だけではなく、地域を学びの場に、地域の問題をまとめていた。 ・地域の人に広げたいという思いに感心した。

【第３回】ユネスコスクール子ども宣言作成会議	
日時	2020 年 11 月 15 日（日）11:00～12:30
会場本部	奈良教育大学　管理棟２階　大会議室
学生スタッフ	西田　有佳里　　佐藤　こころ　　池田　千晴　　中家　麻弥 木下　結等　　川田　大登　　松岡　花　　岩城　雄大 後藤　旭　　市川　真理瑛　　川西　良海　　谷垣　徹　　（計 12 名）
参加者	関西創価高等学校　　８名 奈良教育大学附属中学校　５名 神戸市立大沢中学校　　11 名 奈良市立都祁小学校　　23 名　　（計 47 名）

○子ども会議の趣旨、Ⅰ・Ⅱの振り返り（谷垣）
○「ユネスコスクール子ども宣言（案)」の提示

■グループワーク①（ミックスグループ１班～４班＋都祁小学校）
・宣言（案）をたたき台として、修正すべき点を考える。

■グループワーク②（学校グループ）
・みんなで作った宣言を各学校で広め、実践していくためのアクションプラン

■グループワーク③（ミックスグループ１班～４班　※都祁小学校は３班に合流）
・各校のアクションプランの共有
・ユネスコスクールの仲間でこれから一緒に取り組みたいこと

○外部評価者からの講評（柴尾智子氏）

グループワーク①「子ども宣言（案）」の修正すべき点

グループ①

・「対話」が分かりにくい

・人種　「肌の色の違い」など分かりやすい表現で

・価値観「感じ方」、「捉え方」などのやさしい言葉で

グループ②

・宣言だから「解決のために行動しましょう」

・格差、価値観、採択など、難しいことが多いので、小学生でもわかる言葉・文章にしたい。

グループ③

・多様性の「生物」を具体的に

・自分ごと化で「納得し」と入れたい

グループ④

・難しい言葉は具体的な表現にしたい

・価値観「今すべきこと」ではなく、「今、自分ができることから始めよう」

グループワーク②「子ども宣言を広めていくための各校でのアクションプラン」

関西創価高校

・GRIT では、これまで取り組んできたことをもとにしてできる

・ユニクロなどとすでに取り組んでいる中で、さらにアピールしていく

奈良教育大学附属中学校

・授業で取り上げる（みんないる）

・全校集会や生徒会で

・プリント、ポスターで周知する

神戸市立大沢中学校

・全校朝礼で発表

・小学生にも広めるためにポスターで貼り出す

・クイズにして楽しんで理解してもらう

・地域にも伝えていきたい

奈良市立都祁小学校

・まずは一番身近な友達から

全体講評（柴尾智子氏）

・私が子どもの頃の勉強は、いつか役に立つと考えられていたが、みなさんの学びは「今役に立つ」「みんなの役に立つ」

・これから宣言がどんどん広がっていって、もっとたくさんの人が考えてくれるようになったらいい。

・多様性といっても、いろんな多様性があることについて考えられたのがよかった。

・すばらしい活動でした。応援しています。

令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ共創プラットフォーム事業」
ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール 子どもフォーラム

2020年11月15日（日）9:30～11:30

11月15日日曜日 日直 なっきょん

開始前の確認

①カメラ・マイクをONにできますか？
（背景に映したくないものがないかも確認しましょう）

②こちらの音声は聞こえますか？

③YouTubeが見れますか？
（チャット欄のURLか右のQRコードから）

④表示名の変更ができますか？
（次のページで示すとおりに変更してください）

11月15日日曜日 日直 なっきょん

【参加生徒のみなさん】
- 以下の表から自分の名前を見つけて、表示名の変更をお願いします。
（例）「★A1西田友佳里(ユネスコ)」
- メモ用紙を数枚と(太めの)ペンを用意しておいてください。

【オブザーバーのみなさん】
- 表示名の変更をお願いします。
「氏名（所属）」
- カメラはOFF・マイクはミュートでお待ちください。
- 画面キャプチャ、レコーディングなどはご遠慮ください。

≪表示名の変更方法≫
画面下部「参加者」から
→自分のアカウント名の右側「詳細」
→「表示名の変更」

9時30分の開始までしばらくお待ちください。時間が長いです！今のうちにトイレに行っておきましょう。

関西創価高校
★A1南雲良明(創価)
★A1柳本清美(創価)
★A1大澤奈菜美(創価)
★A2谷野美由紀(創価)
★A2木下和美(創価)
★A2佐藤直樹(創価)
★A3広瀬勝利(創価)
★A3矢野瑞希(創価)
★A3山田幸栄(創価)
★A4佐藤優希(創価)
★A4小宮山明子(創価)
★A4井尻西(創価)

奈良教育大学附属中学校
★B1高田智弘(附中)
★B2布谷夏利(附中)
★B3本梅緩乃(附中)
★B4吉賀盛實(附中)
★B4西野心咲(附中)

神戸市立大沢中学校
★C1稲生/岡波/笠原(大沢)
★C2東本/水谷/柳(大沢)
★C3藤田/三枝/頼家(大沢)
★C4田端/巴月/山之内(大沢)

奈良市立都祁小学校
★D3(都祁)

京都外大西高校
★E1内藤/吉田(外大西)
★E4田中/松田(外大西)

立命館守山高校
★F1平井開陸(守山)
★F2東紘世1(守山)
★F3武田翔馬(守山)

和歌山県立橋本高校
★G2赤井/茨木/坂井/下田/平内(橋本)

奈良教育大学ユネスコクラブ
★A1西田有佳里(ユネスコ)
★A1木下結等(ユネスコ)
★A1岩城雄大(ユネスコ)
★B2池田千瞳(ユネスコ)
★B2佐藤こころ(ユネスコ)
★C3川田大量(ユネスコ)
★C3川西良海(ユネスコ)
★C4中家麻弥(ユネスコ)
★B4松岡花(ユネスコ)
★D3後藤旭(ユネスコ)
★D3-4市川真里瑛(ユネスコ)
★谷垣徹(ユネスコ)

11月15日日曜日 日直 なっきょん

今日の予定

9:30～11:30
ユネスコスクール子どもフォーラム
（7つの学校からのESD学習発表会）

11:40～12:30
ユネスコスクール子ども宣言作成会議

11月15日日曜日 日直 なっきょん

ユネスコスクール子どもフォーラム 発表順

① 京都外大西高校
② 奈良教育大学附属中学校
③ 和歌山県立橋本高校
④ 奈良市立都祁小学校
⑤ 立命館守山高校
⑥ 関西創価高校
⑦ 神戸市立大沢中学校

11月15日日曜日 日直 なっきょん

ユネスコスクール子どもフォーラム 進め方

発表動画を見る ①京都外大西高校 ②奈良教育大学附属中学校	感想・質問タイム	コメント（柴尾様）
発表動画を見る ③和歌山県立橋本高校 ④奈良市立都祁小学校	感想・質問タイム	コメント（柴尾様）
発表動画を見る ⑤立命館守山高校 ⑥関西創価高校 ⑦神戸市立大沢中学校	感想・質問タイム	コメント（加藤学長）（石田様）

11月15日日曜日 日直 なっきょん

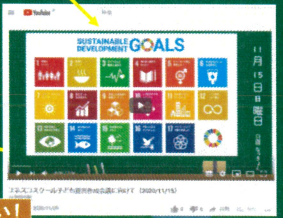
感想・質問タイム

11月15日日曜日 日直 なっきょん

発表動画の見方

③
クリック or スキャン

【発表】○○高校
https://youtu.be/ht6fDdr6O8Y



④
Zoomにもどる

※オブザーバーの皆様も同様の方法でご覧ください。

【注意】Zoomからは退出しないでください！

11月15日日曜日 日直 なっきょん

	関西創価高校	奈良教育大学附属中学校	京都外大西高校	立命館守山高校	和歌山県立橋本高校	神戸市立大沢中学校	奈良市立都祁小学校	奈良教育大学ユネスコクラブ
	個人PC	個人PC	2グループ	個人PC	全員1台	4グループ	全員1台	個人PC
1班	南雲 良明 柳本 清美 大澤 奈菜美	髙田 智弘	内藤 みなみ 吉田 奈瑠美	平井 開陸		稲生 柚雅 岡波 祐介 笠原 琉生		西田 有佳里 木下 結等 岩城 雄大
2班	谷野 美由紀 木下 和泰 佐藤 直樹	布谷 夏利奈		東 紘世	下田 朋花 赤井 希光 平内 唯希 茨木 百香 坂井 里宇	東本 怜士 水谷 開 柳 海優		池田 千晴 佐藤 こころ
3班	広瀬 勝利 矢野 瑞希 山田 幸栄	本梅 綾乃		武田 翔馬		藤田 梓穏 三枝 凛 類家 治希	23人 （下記参照）	川田 大登 川西 良海 後藤 旭 市川 真里瑛
4班	佐藤 優希 小宮山 明子 井尻 茜	古賀 盛寛 西野 心咲	田中 亜依 松田 愛妃			田端 優樹 巴月 渓人 山之内 敬登		中家 麻弥 松岡 花
都祁小	松田 真宙 三森 妃夏 藤原 花	石堂 新太 小池 司 田中 暖人	千田 小梅 西岡 梅愛 八重川 亜実	中森 由羽 仁木 のどか 村田 咲月	辻 静和 森本 宗磨 浦岡 泰雅	亀谷 芽依 豊澤 寧々 大西 奈穂	藤田 琉聖 井上 さくら 藤井 愛美	今阪 莉音 飯倉 光世

次は、4つのグループに分かれて感想・質問タイムにします！

11月15日日曜日 日直 なっきょん

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール子ども宣言作成会議

休憩中

子ども宣言作成会議は
11時40分に開始します。

11月15日日曜日 日直 なっきょん

令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール
子ども宣言作成会議

2020年11月15日（日）11:40～12:30

11月15日日曜日 日直 なっきょん

【参加生徒のみなさん】
- 以下の表から自分の名前を見つけて、表示名の変更をお願いします。
（例）「★A1西田友佳里（ユネスコ）」
- メモ用紙を数枚と（太めの）ペンを用意しておいてください。

【オブザーバーのみなさん】
- 表示名の変更をお願いします。
「氏名（所属）」
- カメラはOFF・マイクはミュートでお待ちください。
- 画面キャプチャ、レコーディングなどはご遠慮ください。

≪表示名の変更方法≫
画面下部「参加者」から
→自分のアカウント名の右側「詳細」
→「表示名の変更」

関西創価高校	奈良教育大学附属中学校	奈良市立都祁小学校	奈良教育大学ユネスコクラブ
★A1南雲良明(創価)	★B1髙田智弘(附中)	★D1〇〇/△△/□□/…(都祁)	★A1西田有佳里(ユネスコ)
★A1柳本清美(創価)	★B2布谷夏利(附中)	★D2〇〇/△△/□□/…(都祁)	★A1木下結等(ユネスコ)
★A1大澤奈菜美(創価)	★B3本梅綾乃(附中)	★D3〇〇/△△/□□/…(都祁)	★A1岩城雄大(ユネスコ)
★A2谷野美由紀(創価)	★B4古賀盛寛(附中)	★D4〇〇/△△/□□/…(都祁)	★B2池田千晴(ユネスコ)
★A2木下和泰(創価)	★B4西野心咲(附中)	※可能であれば、児童の名前を列記してください。	★B2佐藤こころ(ユネスコ)
★A2佐藤直樹(創価)			★C3川田大登(ユネスコ)
★A3広瀬勝利(創価)	神戸市立大沢中学校		★C3川西良海(ユネスコ)
★A3矢野瑞希(創価)	★C1稲生/岡波/笠原(大沢)		★C4中家麻弥(ユネスコ)
★A3山田幸栄(創価)	★C2東本/水谷/柳(大沢)		★B4松岡花(ユネスコ)
★A4佐藤優希(創価)	★C3藤田/三枝/類家(大沢)		★D3後藤旭(ユネスコ)
★A4小宮山明子(創価)	★C4田端/巴月/山之内(大沢)		★D4市川真里瑛(ユネスコ)
★A4井尻茜(創価)			★谷垣徹(ユネスコ)

ラストスパート！最後まで一緒にがんばりましょう！

11月15日日曜日 日直 なっきょん

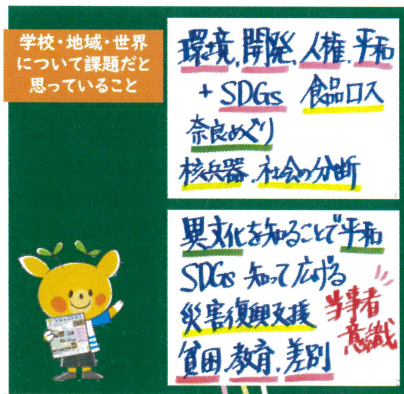
	関西創価高校	奈良教育大学附属中学校	奈良教育大学ユネスコクラブ
子ども会議Ⅰ 11月1日（日）	4人		10人
子ども会議Ⅱ 11月8日（日）	8人	4人	9人

【今日】子ども宣言作成会議　参加のみなさん

- 関西創価高校　12人
- 奈良教育大学附属中学校　5人
- 神戸市立大沢中学校　12人
- 奈良市立都祁小学校　23人
- 奈良教育大学ユネスコクラブ　12人

11月15日日曜日 日直 なっきょん

学校・地域・世界について課題だと思っていること



11月15日日曜日 日直 なっきょん

「近畿ユネスコスクール子ども宣言」作成に向けた

作文募集

11/1(日)・11/8(日)・11/15(日)に開催される「近畿ユネスコスクール子ども会議」では、近畿地方のユネスコスクールに通う児童生徒の仲間が集まり、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成します。宣言の作成に向けて、事前に児童生徒の皆さんからのアイディアを募集します。
子ども会議当日に参加できない皆さんも、ぜひあなたの言葉を宣言に！みなさんの作文をお待ちしています！

作文テーマ

平和や人権、人としての尊厳、ジェンダー平等、自由、公正、民主主義、気候変動、生物多様性の劣化、海洋プラスチック汚染などの環境問題、文化多様性、エネルギー問題、国際連携など、**持続可能な社会づくりについて、日ごろ感じていること**（よくできていることや反対に課題だと感じていること）、課題であればその**解決のために自分ができること、挑戦してみたいこと**を自由に書いて下さい。

作文の様式について

文字数や使用する用紙について**決まったものはありません。**作文を原則としますが、ポスターや詩、俳句・短歌、などで表現されてもけっこうです。

提出について

作文は、**担当の先生**（学級担任の先生・顧問の先生など）に提出してください。

〈問い合わせ先〉
〒630-8528 奈良市高畑町
奈良教育大学 教育研究支援課
ESD推進事務・幼児・西山
E-mail: k-koumu@nara-edu.ac.jp
TEL 0742-27-9357
FAX 0742-27-9147

近畿各地のユネスコスクールから
11校
337枚
の作文が集まりました！

環境　人権　平和

関心がある人を増やさないと！ 多くの人に身近な問題に！
知る機会を自分たちの力でどう作るか

「知る」➡「行動する」のギャップ
どのように行動化を促すか

そのために
ユネスコスクールの私たちができることは？

11月15日日曜日 日直 なっきょん

関心がある人を増やさないと！
多くの人に身近な問題に！
知る機会を自分たちの力でどう作るか

「知る」➡「行動する」のギャップ
どのように
行動化を促すか

ポスターセッション
何気なく見る機会
あなたの行動が
こんな力を持ってる！
ユネスコスクールの交流 !!

学校内、公共の場で
ポスターをはって知る機会
学校内での発信
自分の行動を知ってもらう
地域のお店 見直す

イベント！
身近なところから！
大きいグループ→小さいグループ
アクションを考える仕組み
自分たちの理解→行動
情報につながっている(紙)

SNS、ポスター
有名人へのはたらきかけ
理解、納得 → 行動
自分から行動、伝える
あきらめず、先頭に立って

11月15日日曜日
日直 なっきょん

多様性
学び続ける
対話
尊重
あたりまえ
尊重
行動
｜対｜
への輪
つながり
教育
へしましょう。

ポスター作成（学内、学外）
学校全体で広げる
自分の行動を見直す

行動 と 意識
わかる→行動の予想、
身近なこと→活動を
どのように広げるか。

ポスターを作る側に
なってもらう
SDGsを取り上げたものの増加、
身近に知る機会をつくる

SNS、ポスター作成
下
→友人、クラスがいつか
理解→興味→行動が
大事！

裏紙、廃棄物削り、SDGs、
装飾、発信、
セミナー、勉強、
集団と教育の関連性、

大きなことを知って
小さなことから始める

11月15日日曜日
日直 なっきょん

貧困
教育→飢餓

同じ地球人
地球に住む仲間

障害、人種、LGBTQ
移民機、戦争、
お金の分断、食品の入
人の手に渡らないことに注目

探究活動、
理害問題を
知ったときの行動、
身近な所から!!
つながる場所があったら!!

人権問題
（コロナ）
差別…

ポスターなどで
発信（SNSなど）
地球との繋がり
ユネスコの輪

ユネスコスクールで
情報を得る
→発信していく

知る → 行動力
→身近なことから。

異文化を知る
→平和へ

当たり前を行動。
↓
当たり前になる。

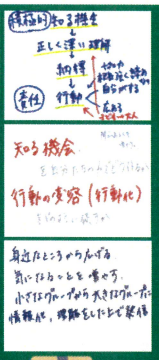
わかる
↓
行動・意識。

自分の姿勢で
周りを巻き込む

共働、
目的は同じ!!

探究する

微力だが
無力ではない



知る機会
行動の変容（行動化）

身近なところからはじめる
大きなことを考える。
小さなグループから大きなグループへ
情報が、理解をたとえ発信

11月15日日曜日
日直 なっきょん

ユネスコスクール子ども宣言 原案

今、私たちが暮らすこの地球は、国や人の対立・格差、生物多様性の劣化や気候変動、自然災害の増加、感染症の流行など、様々な問題を抱えています。ユネスコスクールで学ぶ私たちは、次世代を担う者として、これらの課題について学びを深めてきました。

2015年の国連総会でSDGs（持続可能な開発目標）が採択されてから5年が経ち、テレビや新聞、街中でもよくSDGsのロゴを見かけるようになりました。まさに今、SDGsの達成、持続可能な社会の実現に向けて、ユネスコスクールでの学びの成果が問われています。

2020年11月、近畿各地のユネスコスクールで学ぶ仲間がオンラインで集い、自分たちの学校・地域・世界が抱える課題、関心のある課題を共有し合い、課題の解決に向けてユネスコスクールの私たちにできることを話し合いました。

私たちは、持続可能な社会づくり、SDGsの達成を目指して、次の5つを宣言します。

1.《多様性》
私たちは文化、生物、性、人種、地域などの違いを認め合いましょう。

2.《価値観》
私たちは自分自身の価値観を見直し、未来のために、今すべきことを考えましょう。

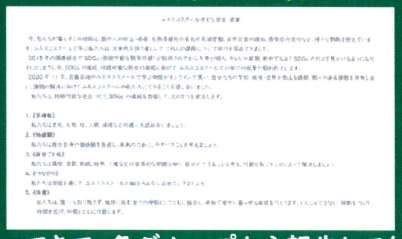
3.《自分ごと化》
私たちは環境、貧困、飢餓、紛争、人権などの世界的な問題を知り、自分のできることを考え、行動を起こすことによって解決しましょう。

4.《つながり》
私たちは対話を通して、ユネスコスクールの輪をみんなに広めていきましょう。

5.《決意》
私たちは、誰一人取り残さず、地球に住む全ての仲間としてともに協力し、平和で幸せに暮らせる地球をつくります。1人じゃできない、仲間をつくり、仲間を広げ、仲間とともに行動します。

11月15日日曜日
日直 なっきょん

グループワーク①
みんなの力で、子ども宣言をより良いものにしよう！



全体に戻ってきて、各グループから報告してもらいます。

11月1日日曜日
日直 なっきょん

グループワーク②
（学校ごとに分かれて話し合います）

みんなで作った「子ども宣言」を
自分たちの学校で**広げて行動に移す**ために、
何に取り組みますか？

終わったら、1班～4班にもどって、各校の計画を報告してもらいます。

11月15日日曜日
日直 なっきょん

グループワーク③
（1班～4班にもどって話し合います）

①みんなで作った「子ども宣言」を
広げて行動に移すための各校の計画

②ユネスコスクールの仲間でつながって
これから一緒にやりたいこと

11月15日日曜日
日直 なっきょん

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会
ユネスコスクール子ども宣言作成会議

**みなさんのご参加
ありがとうございました！**

ユネスコスクールの仲間としてこれからも一緒に
SDGsを達成、持続可能な社会を実現するために
「ユネスコスクール子ども宣言」を実践していきましょう！

11月15日日曜日
日直 なっきょん

近畿ユネスコスクール子ども宣言

2020 年 11 月 15 日

今、私たちが暮らすこの地球は、国や人の対立・格差、生物多様性の損失、気候変動、自然災害の増加、感染症の流行など、様々な課題を抱えています。ユネスコスクールで学ぶ私たちは、これからの社会を担う者として、これらの課題について学びを深めてきました。2015 年の国連持続可能な開発サミットで SDGs（持続可能な開発目標）が採択されてから 5 年が経ち、テレビや新聞、街中でもよく SDGs のロゴを見かけるようになりました。まさに今、SDGs の達成、持続可能な社会の実現に向けて、ユネスコスクールでの学びの成果が問われています。2020 年 11 月、近畿地方各地の小学校から大学までのユネスコスクールで学ぶ仲間99人がオンラインで集い、近畿地方各地のユネスコスクールから集まった 337 枚の作文等をもとに、自分たちの学校・地域・世界が抱える課題、関心のある課題を共有し合い、課題の解決に向けてユネスコスクールの私たちにできることを話し合いました。

私たちは、持続可能な社会づくり、SDGs の達成を目指して、次の5つのことを宣言します。

1.《多様性》

私たちはジェンダー、人種、地域、文化、職業などの違いを認め合いましょう。また、生物多様性を大切にしましょう。

2.《価値観》

私たちは自分自身の考え方・捉え方を見直し、未来のために、今できることを考えましょう。

3.《自分ごと化》

私たちは貧困、飢餓、人権、環境、紛争などの地球的な課題を深く理解し、自分にできることを考え、解決するために行動しましょう。

4.《つながり》

私たちは一人一人の話し合いから始めて、ユネスコスクールの輪をみんなに広げていきましょう。

5.《決意》

私たちは誰一人取り残さず、地球に住む全ての仲間とともに協力し、平和で幸せに暮らせる地球をつくります。課題の解決は一人では出来ません。私たちは仲間をつくり、仲間を広げ、仲間とともに行動します。

ユネスコスクール子ども会議・ユネスコスクール子どもフォーラム　参加者名簿

関西創価高等学校	谷野　美由紀	山田　幸栄	木下　和奏	井尻　茜
	南雲　良明	矢野　瑞希	小宮山　明子	佐藤　直樹
	広瀬　勝利	柳本　清美	佐藤　優希	大澤　奈菜美

奈良教育大学附属中学校	髙田　智弘	本梅　綾乃	古賀　盛寛	西野　心咲
	布谷　夏利奈			

神戸市立大沢中学校	稲生　柚雅	田畑　優樹	水谷　開	類家　治希
	岡波　祐介	巴月　滉人	三枝　湊	小畑　幸一
	笠原　琉生	東本　怜士	山之内　敬登	今西　純子
	藤田　亜希子			

奈良市立都祁小学校	松田　真宙	千田　小梅	辻　静和	
	三森　妃夏	西岡　梅愛	森本　宗磨	藤田　琉聖
	藤原　花	八重川　亜実	浦岡　泰雅	井上　さくら
	石堂　新太	中森　由羽	亀谷　芽依	藤井　愛美
	小池　司	仁木　のどか	豊澤　寧々	今阪　莉音
	田中　暖人	村田　咲月	大西　奈穂	飯倉　光世

京都外大西高等学校	田中　亜依	松田　愛妃	内藤　みなみ	吉田　奈瑠美

立命館守山高等学校	平井　開陸	東　紘世	武田　翔馬	

和歌山県立橋本高等学校	下田　朋花	平内　唯希	茨木　百香	坂井　里宇
	赤井　希光			

奈良教育大学ユネスコクラブ	坂元　亜衣	佐藤　こころ	松岡　花	池田　千晴
	水名口　愛梨	岩城　雄大	中家　麻弥	川西　良海
	狗飼　菜々子	川田　大登	木下　結等	市川　真里瑛
	後藤　旭	藤本　尋巳	西田　有佳里	仲村　幸奈
	谷垣　徹			

「ユネスコスクール子ども会議Ⅰ」へのオンライン参加での学び

国語教育専修４回生　坂元　亜衣

令和２年 11 月１日、奈良教育大学次世代教員養成センター２号館とオンラインによる参加で「ユネスコスクール子ども会議Ⅰ」が開催された。ユネスコスクールオンライン近畿地方大会「ユネスコスクール子ども会議」は、次世代の担い手である児童生徒がオンラインで集い、地域社会や学校が抱える課題の解決に向けた取り組みについて議論し、「ユネスコスクール子ども宣言」の作成を行うものである。また、これを本大会に続いて 12 月７日にオンラインで開催されるユネスコスクール全国大会に提供することで、全国大会の成功に資することを目的としている。本会議は今回の 11 月１日の他に、11 月８日、11 月 15 日の計３回に亘って開催された。私は 11 月１日に行われた「ユネスコスクール子ども会議Ⅰ」に参加した。本会議では、奈良教育大学からユネスコクラブの学生が 10 人、関西創価高校の生徒が４人参加し、事前課題であったワークシートの内容共有や意見交流などの活動を行った。

今回の「ユネスコスクール子ども会議Ⅰ」に事前準備から当日まで参加した中での学びを振り返り、自分が学んだこと、感じたことを２点述べる。一つ目に事前準備の重要さについて、二つ目にオンライン上での話し合いについてである。

一つ目の事前準備の重要さについて述べる。今回の子ども会議はオンライン上での開催であり、私にとって初めての経験であった。その中で事前に、開催内容の確認や参加者情報の共有、私たちがどのような役割でどのように動くべきなのかをオンラインの会議を用いて把握した。また、当日にオンライン上で行うアイスブレイクの練習も行った。アイスブレイクは当日に初めて出会う高校生の緊張をほぐし、話し合いを円滑に行うためにとても大切なものである。その練習を事前に行うことで大学生側が内容を把握し、当日もそれぞれが協力して臨機応変に対応することができた。また、事前に打ち合わせを行うことで当日の流れや目的などを理解しながら進めることができ、自分自身の学びも深めることができた。

オンライン会議でのグループ活動の様子

二つ目のオンライン上での話し合いについて述べる。今回はグループで意見交流をすることが多く、私は主に進行を行った。進行を行う中での反省点として、沈黙が続いてしまうとどうしても自分が話し出すことが多くなってしまったという点が挙げられる。オンライン上ではそれぞれの話し出すタイミングが分かりにくく、私自身が話す回数が多くなってしまい、グループのみんなの意見を引き出すことが難しかった。参加していた高校生もいろいろなことに関心を持っており、学校での取り組みの話などとても興味深いものが多くあった。グループの参加者の議論をさらに活性化するために、話に挙がった内容についてより具体的に尋ねたり、発言を促したりすることが必要だと感じた。また、それぞれに考えが存在するのでもう少し意見が出るまで「待つ」ことが必要だと感じた。

以上、２点が今回の活動を通して学んだことや感じたことである。初めてのオンライン開催で戸惑う部分もあったが、全体を通して参加者それぞれが協力し、話し合いを行ったり、発表をしたりと適切に動くことができ、有意義な話し合いを行うことができたと感じる。普段の活動の共有や他のグループの参加者の意見などを聞くことでさらに多くの学びを得ることもできた。今回の貴重な経験を大切にし、これからの活動に活かしていきたい。

近畿ユネスコスクール子ども会議を通して出会った、新たな仲間と多くの気づきについて

英語教育専修４回生　水名口　愛梨

2020 年 11 月 1 日、8 日、15 日に、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会が行われた。私は今回、この大会のプログラムの一つである、ユネスコスクール子ども会議 I に関わった。子ども会議の参加者は、ユネスコスクールに通う小学生から高校生の児童生徒、そして私たち奈良教育大学の学生である。３日間を通して交流を行い、よりよい学校・社会づくりのために自分たちには何ができるのかについて話し合いを行った。私は、この子ども会議の事前準備と１日の会議に参加し、新たな気づきと学びに出会うことができた。

本報告書では、その中から三つを取り上げる。一つ目は、年齢ではなく、その人自身で決まるということについて、二つ目は、仲間と交流し新たな仲間を増やしていく大切さについて、そして三つ目は、行動することの大切さについてである。

一つ目は、年齢ではなく、その人自身で決まるということについてであるが、これは、事前準備と本会議の二つを通して感じたことである。事前準備では、ユネスコスクールの子どもたちから寄せられた作文を読んだ。その作文の中には、地元を発展させるためにすべきことや、生物多様性を維持するためにすべきこと等に関する素晴らしいアイデアが多く書かれていた。また、今回の参加学生の中では、私たちが大学生で最も年齢が上であったため、会議中の司会進行や意見交流のファシリテーターという役割を担う必要があると考えていた。しかし実際に会議が始まってみると、年齢や学年は関係なく話し合いは活発に進んだ。私が「SDGs をより多くの人に広めるために何ができるのか」と疑問を投げかけた際、一人の高校生が「SNS で発信することで知らない同世代の人が SDGs を知るきっかけになるのではないか、そして、親や友達という身近な人に伝えていくことから始めるべきではないか」と返答をしてくれた。そして彼は、既に SNS を用いて発信をしていると言っていた。私よりもはるかに深く考え、既に行動を起こしていることに驚いた。それと同時に、まだ若いから、子どもだからと決めつけるのはいけないと改めて感じた。また、若い世代だからこそ、大人に向けて発信できるものがあるはずだ、と感じた。

二つ目は、仲間と交流し、新たな仲間を増やしていく大切さについてである。今回の会議での交流を通し、一人では思いつかないような考えを仲間から吸収し、自分の考えをより深めることができた。これを通して、自分自身で考えることに加え、仲間と話し合うことの大切さに気付くことができた。また、仲間との話し合いの中で「自分たちは SDGs について関心があり、少しでもより良い方向にいくようにと考えている、しかし、ユネスコスクールではない学校に通う人たちはどうなのだろうか、これからは、ユネスコスクール内だけではなく、ユネスコスクール外の仲間を増やしていこう」という意見が出た。ユネスコの輪を大きくすることができるように、これからアクションを起こしていこうと思う。

三つ目は、行動することの大切さについてである。私たちは、頭の中で分かっていても、実際に行動に移せていないことがある。例えば、プラスチックを減らすことが環境を守ることに繋がると授業で学習した後に、マイボトルではなく、自動販売機で飲み物を購入するといったことである。せっかく、学習したにも関わらず、実生活と繋げることが出来ていなければ意味がない。自分には何ができるのか、実際に行動に移せているのかについて、これから意識していきたいと思う。また、一人の行動では SDGs が掲げる大きな目標を達成することができない。仲間と協力し、行動化に繋げていきたい。

今回の事前準備と会議を通して、多くのことを仲間から吸収することができた。仲間との話し合いの中で出た「小さなことでも少しずつ」「周りに発信していく」を大切にしながら、これからも SDGs についての学習を深めていこうと思う。

オンラインイベントの難しさ

英語教育専修３回生　後藤　旭

令和２年 11 月 15 日、奈良教育大学を運営本部とし、オンライン上で、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会「ユネスコスクール子どもフォーラム」と「ユネスコスクール子ども宣言作成会議」の二つが開催された。「ユネスコスクール子どもフォーラム」では、各参加校の SDGs に関する学習や ESD の実践が発表され、それぞれの活動について意見を交わしたり、感想を述べあったりした。また、「ユネスコスクール子ども宣言作成会議」では、過去２回の「ユネスコスクール子ども会議」を踏まえて子ども宣言を完成させるという目的で、子どもたちが交流を行った。小学生から高校生までの幅広い年齢の子どもたちが参加し、積極的な発言が見られた。私は、本会議の最初にアイスブレイクを行ったり、子どもたちのグループに入って議論のファシリテーションを行ったりした。

本会議に参加した中で、学び、感じたことを２点述べる。第１に、オンラインで行うアイスブレイクの難しさについて、第２に、幅広い年齢の子どもたちに対してのファシリテーションについてである。

第１に、オンラインで行うアイスブレイクの難しさについて述べる。これまでに、対面でのアイスブレイクの経験は多くあったが、オンラインでアイスブレイクを行うのは初めてであった。対面でのアイスブレイクであれば、子どもたちの表情やリアクションがよく見える。しかしオンラインでは、子どもたちがミュート状態であったり、一人一人が映る画面が小さかったりするため、対面でのアイスブレイクとは状況が違った。対面であれば、子どもたちから自然とリアクションが見られることも多いが、オンラインでは、アイスブレイクを進行する側が上手く声掛けなどを行わないと、子どもたちからのリアクションはあまり得られない。少し大袈裟なジェスチャーをする等の工夫が必要であると感じた。またオンラインでは、アイスブレイクのルール説明が、対面時よりも一層重要であると思った。ルールを理解できていなければ、子どもたちはアイスブレイクを楽しめない。今回は、子どもたちがミュート状態だったこともあり、子どもたち全員がルールをしっかり理解できたかどうかを確認することが困難だった。だからこそ、ルールを説明するときには、対面時よりもゆっくりはっきり話す必要があった。これらの気配りはオンラインでのアイスブレイクには不可欠であると感じた。

第２に、幅広い年齢の子どもたちに対してのファシリテーションについて述べる。今回、小学生と高校生という、年齢の離れた子どもたちが同じグループで活動する場面があった。高校生の発言が小学生にしっかり伝わっているか、全体の足並みは揃っているかなど気に掛けるところが多く、ファシリテーションを行うのが難しかった。しかし、年齢が離れているからこそ、同じ物事でもそれぞれ目線が異なり、グループとして新しい視点を得ることができた。小学生の表情やリアクションに注意しながらファシリテーションを行い、結果として活発なグループ活動になった。

オンライン活動の様子

以上２点が、私が本大会への参加を通して、学び、感じたことである。コロナ禍によって、オンラインという新たな活動の形が生まれた。今回はその難しさを感じ、また同時に新たな気づきも得ることができた。オンラインでの活動を通して得た気づきを、対面での活動にも応用していきたい。

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会を終えて

音楽教育専修２回生　佐藤　こころ

2020 年 11 月 1 日、8 日、15 日にユネスコスクールオンライン近畿地方大会が行われた。この大会のプログラムの一つである「ユネスコスクール子ども会議」では、ユネスコスクール子ども宣言の作成に向けて、奈良教育大学ユネスコクラブをはじめとする近畿地方各地のユネスコスクールと Zoom を用いて、話し合いを行った。私たち奈良教育大学ユネスコクラブの部員は、この会議のファシリテーションを行った。また 15 日にはユネスコスクール子どもフォーラムが開催され、参加した各学校の取り組みや学習成果などをまとめた動画を視聴し、質疑応答や意見交流を行った。加えて私は、15 日に行われた「実践交流会Ⅲ」で「コロナ禍における災害復興支援の可能性」についての発表を行った。

この大会を通して、私はたくさんのことを学んだ。学んだことを三つの項目に分けて取り上げる。一つ目は、様々な視点を知る楽しさについて、二つ目は、表情の重要性について、三つ目は、行動に移すことの難しさについてである。

まず、一つ目の様々な視点を知る楽しさについて述べる。本会議には、小学生から大学生までの子どもたちが参加していた。意見交流を行っていく中で、多様な意見や考える視点の違いについて気づくことができた。学校ごとに違う視点を持っていたり、各学校の児童生徒の中でも持っている視点が違ったりと、多くの視点に触れることができた。本会議を通して、私が持っていなかった視点を持つことができた。それと同時に「このような視点から考えることもできるのだ」と気付くことがとても楽しかった。また、実践交流会Ⅲでの発表に対していただいた「いつでも被災者になりうる」という言葉に、その意識の大切さを実感した。発表段階では、「災害復興支援を行う側」としての視点を持っていたが、そのように考えに触れ、私自身もいつかは被災者になりうるのだと思うようになった。このようなことから、様々な視点からの考えや意見を聞くことは自分にとって新たな気付きがあり、それを知ることは楽しいことだと思った。

二つ目の表情の重要性について述べる。本会議の中で数回グループワークを行った。その際に、児童生徒の意見を引き出すことがとても難しかった。意見を出しやすい、話しやすい環境を作るには、どうしたら良いかを考えながら行った。大学生の表情によって児童生徒の緊張を緩和し、話しやすい環境を作ることができると考え、マスクをしていても分かりやすいような笑顔でグループワークを行った。最初は緊張していた児童生徒が多かったが、次第に意見を出してくれるようになり、グループワークがスムーズに進むようになった。表情の重要性についての学びは、オフラインでのグループワークでも活用することができると考えた。

三つ目の行動に移すことの難しさについて述べる。私は、大学に入学して初めて ESD・SDGs について学んだ。ESD・SDGs の授業を受けているときは、私一人が動いて、何が変わるのかと疑問を感じ、なかなか行動に移すことができなかった。しかし、子どもフォーラムで各校の取り組みや学習内容等を知り、自分に何かできることはないかと考えるようになった。このようなことから、行動に移すきっかけがとても重要であると考えた。行動に移すことは、ESD・SDGs でも重要であるが、その他の場面でも必要になってくると考える。将来、教師を志す者として、児童生徒の行動化を促すきっかけを与えられる教師になりたいと考えた。

子ども会議の様子

本会議を通して、たくさんのことを学び、感じることができた。今回得たものを今後の学校生活で生かし、自分の成長につなげていきたいと考える。

ユネスコスクールに通う子どもたちの誓い

教育学専修２回生　岩城　雄大

令和２年 11 月１日、８日、15 日、奈良教育大学をキーステーションとし、様々な場所からの参加をもってオンラインによるユネスコスクールオンライン近畿地方大会が開催された。私はその中で「ユネスコスクール子ども会議」の学生ファシリテーターの一人として１日と 15 日に参加した。本会議は近畿地方各地のユネスコスクールに通う児童生徒から送られてきた作文を基に「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成することを目的とした。作文の内容は、「持続可能な社会づくりについて、日ごろ感じていること（よくできていること・課題に感じていること）、課題があれば、その解決のために自分ができること、挑戦したいことについて」であった。開催日にはオンラインでユネスコスクールに通う児童生徒と私たち奈良教育大学ユネスコクラブの有志が集い、宣言作成に向けて討議した。また、各参加校の活動発表も行われた。そして、令和２年 11 月 15 日、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」が完成した。

オンライン会議中の様子

私はこの本会議への取り組みを通して三つのことを感じ、学んだ。一つ目に異なる年代の同士での交流は考えを多様化させること、二つ目に全てを把握していなくても仲間がいれば補い合えるということ、三つ目に児童生徒は自分たちが次の時代を創っていくのだと気づいているということである。

一つ目の、異なる年代の交流は考えを多様化させることについてである。小学生と中学生、小学生と高校生、中学生と高校生など異なる校種の児童生徒が交流することで新しい考え方や捉え方が生まれてくるということを学んだ。そこに大学生も加わって意見をまとめ、報告したが、オブザーバーの先生方より「小学生で持続可能な社会を創るためのお金についても考えるのだと驚いた」というコメントをいただけた。

二つ目の、全てを把握していなくても仲間がいれば補い合えるということについてである。これは学生ファシリテーターの準備などに関することである。私は学生ファシリテーターの一人として参加し、打ち合わせにも参加したが、予定が重なったりして運営や準備にあまり関われなかった。また、プレ大会においては私の力不足で時間配分を間違ったりもした。それにも関わらず、すんなりと事が進み、当日の話し合いのまとめは上手くできた。これはユネスコクラブの幹部の方々や先輩方、後輩たちが中心となって運営・準備・企画・作成を行い、導いていただけたからだと感じている。

三つ目の、児童生徒は自分たちが次の世代を創っていくのだと気づいているということについてである。これは活動発表やその後の討議を見て感じたことである。少なくとも、本会議に参加していた児童生徒は自分たちが次の時代の社会や環境を創っていくということに気づいていて、自分たちから行動を起こし、既に少しずつ社会や環境を変容させているという事実を知り、感動した。よりよい社会について様々な年代の人々と共に考えていくという行動を世間に広め、人々の行動を変容させていくにはどのような取り組みが必要なのかということも議論した。自分たちが実践していくことも大事で、小さなことから始めるのがよいという意見も出た。私たち学生も同時に学ぶことの多い会議であった。私たち自身が持続可能な社会の創り手であることを自覚し、行動していく機会をさらに増やして行くべきなのではないかと考えた。

ユネスコスクールに通っているという共通点のある児童生徒と ESD に関係をお持ちの先生方が一堂に会する本会議は、異なる年代の人々が考えを交流できたという点において有意義なものであったと感じている。これからの行動に対する誓いを込めて、宣言の作成に携わった人々全員に感謝したい。

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会に参加して

国語教育専修１回生　川田　大登

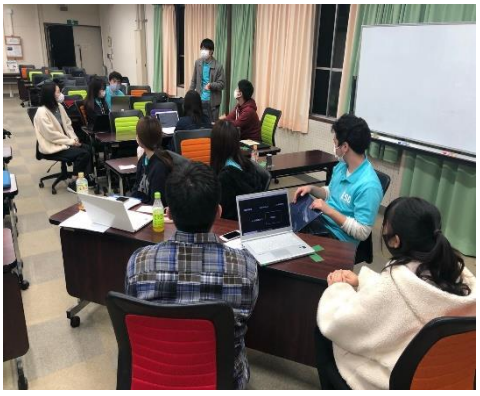
2020 年 11 月１日・８日・15 日の３日にわたり、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会が近畿地方各地の参加者を Zoom で繋ぐ形で開かれた。各日とも午前中は近畿地方のユネスコスクールに所属する小学生・中学生・高校生と奈良教育大学ユネスコクラブの学生が参加する、ユネスコスクール子ども会議が行われ、15 日はそれとともにユネスコスクール子どもフォーラムが行われた。前者は、参加者それぞれの考えや学びを共有し、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成を目指す会議であり、後者は、各学校の ESD 学習発表会である。この大会の中で、私は主にこれらの活動に参加した。

この大会への参加を通して、学んだこと、感じたことの中から特に三つを挙げる。一つ目は各学校における ESD の実践について、二つ目は子どもとの交流について、三つ目は一つの宣言を作り上げる難しさについてである。

一つ目は、各学校における ESD の実践についてである。15 日のユネスコスクール子どもフォーラムでは、小学校・中学校・高校の各学校が取り組んでいる ESD の学習の発表があった。その中で、各学校が校種、校風、地域にあわせてそれぞれ独自の学習をしていることを知った。中でも都祁小学校、橋本高校、京都外大西高校を例に挙げる。都祁小学校は校区内に水源地があるため、まずはその身近な水についての学習を行い、それを世界の水問題についての学びに広げていた。橋本高校は地域の問題として、空き家の多さ、高齢者の交流機会の少なさを取り上げ、それらを解決すべく、実現可能性の高い具体案を、補助金等を視野に入れてつくっていた。京都外大西高校は関西模擬国連大会を開き、国際的な視点から、持続可能な社会について考えていた。このように、それぞれの学校独自の ESD が実践されていることを学んだ。

二つ目は、子どもとの交流についてである。円滑に交流を進めるための、はじめのアイスブレーキング、子どもたちへの伝え方の工夫、話しやすい雰囲気づくりの重要性を知った。特に伝え方を工夫することについて、活動内容をラベリング、ナンバリングして伝えること、一人の子どもが発言したことを整理してもう一度全員に共有することは非常に効果的であると実感した。また、先輩方が主体となって行ってくださったアイスブレーキングは、その実施後、明らかに参加者の緊張がほぐれ、表情が豊かになっていた。このことから、先輩方からアイスブレーキング、伝え方の工夫、雰囲気づくりについてしっかりと学んで今後の活動に生かしていく必要があると思った。

三つ目は、一つの宣言を作り上げる難しさについてである。「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の内容、根本的な考え方や表現の仕方等は、子ども会議での意見や事前に募集した作文に拠っている。しかし、小・中・高校生が理解できるまとまった宣言にするために、一語一語の言葉選びにまでこだわって、宣言をまとめ上げた。長い時間と多大な労力のかかる作業であったが、より ESD や SDGs を深く考える良い機会になったのとともに、一つの宣言を作り上げる難しさを実感した。



子ども宣言を仕上げるための会議の様子

この大会に参加して、以上のように様々なことを学んだ。私にとっては、大学生になって初めて子どもとかかわる機会であり、非常に貴重な経験であった。ここで学んだことを今後の活動に生かしたい。

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会に参加して

音楽教育専修１回生　藤本　尋巳

2020 年 11 月 1 日、Web 会議システム Zoom を用いて行われた、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会・プレ大会 I のうち、ユネスコスクール子ども会議に参加した。この会議は計 3 日間開催され、持続可能な社会の実現のためにどのように行動していくかについて示した「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成することを目的とした。この日、奈良教育大学の学生 10 名、近畿地方のユネスコスクール加盟校の高等学校の生徒４名が参加した。

私は初回のみの参加となったが、開催に向けての準備と当日のグループワークの進行のサポートを行った中で、たくさんのことを学ぶことができた。本報告書では、その中から三つを取り上げたい。一つ目は、グループワークの事前準備について、二つ目は、自身の考えをまとめ、伝える力の未熟さと交流した高校生の様子について、三つ目は、ユネスコスクールの繋がりの重要性についてである。

一つ目は、グループワークの事前準備についてである。進行する立場として企画に参加することが初めてだったため、本番前にどのような打ち合わせをされているのかということを知り、作業の入念さに感銘を受けた。その中でも、グループワークの最初に行うアイスブレークの企画作成に参加し、短時間で、且つオンライン上で出来る簡単なゲームを考えたことが印象に残っている。今回はオンライン上での開催ということもあり、タイムラグやネットワークの不具合など考慮すべき点も多く、出来ることが限られていた。しかし、普段よりも思考を柔軟にしてアイデアを出し合ったことで、当日に高校生と一緒に楽しむことができた時には大きな達成感を味わうことができた。

二つ目は、自分の考えをまとめ、伝える力の未熟さと高校生の様子についてである。頭の中では自分の考えや伝えたいことが思い浮かんでいても、単純明快に伝えることができなかった。それに比べて、高校生は自分がユネスコスクールの特色ある授業で学んだこと、実体験を交えながら積極的に発言していたため、とても圧倒された。この悔しさを糧にし、もっと場数を踏んで、伝える力を身につけたい。

三つ目は、ユネスコスクールの繋がりの重要性についてである。グループでの話し合いの中でも出た意見だが、持続可能な社会を創るためには、より多くの人に ESD・SDGs のことを知ってもらう必要があり、そのためには、まずユネスコスクールの一員である私たちが繋がり、発信していかないといけないと考えた。また、子どもたちが書いた作文の中から出てきたワードを抽出したものを見ると、最終的な意見は同じでも、それぞれがクローズアップする点やアイデアは異なっているため、興味深かった。私たちが繋がることで、私たち自身もより広い視野で ESD・SDGs について理解を深めることができるのではないかと考えた。

オンライン会議をしている様子

本会議に参加したことで、企画を進行させるために必要な、念入りな打ち合わせの重要性、常に全体の動きを見ながら臨機応変に対応する力の大切さと難しさ、また他のユネスコスクールの取り組みについて知ることができた。これからもユネスコスクールの仲間と互いに学び合う機会を大切にし、持続可能な社会創りの担い手の一員として様々な視点から ESD・SDGs について学んでいきたい。

一人ではできないけれど、みんなでならできる！！

音楽教育専修１回生　松岡　花

１１月１日・８日・15 日に、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会が開催された。コロナ禍ということもあり Zoom によるオンライン形式で開催され、私は大会２日目と３日目に参加した。主な活動としては、近畿各地のユネスコスクールに通う児童生徒との交流に加えて、事前に募集した作文から子ども宣言編集作業に関わった。８日に行われたユネスコスクール子ども会議Ⅱでは、参加生徒と学生スタッフがいくつかのグループを作り、解決していかなければならない地球的な課題を挙げ、それらのどんなところに問題があるのか、どのようにして解決していかなければならないのかについて話し合い、意見を共有した。15 日に行われたユネスコスクール子どもフォーラム、ユネスコスクール子ども宣言作成会議では、大会の１日目・２日目で話し合ったことについて共有し、さらに幅広い年齢層での意見交流を行った。“自分ごと化”するにあたって具体的にどのような行動ができるのかを考えた。「小さなことから大きなことへ」ということを意識し、まずは自分の学校で、この大会を通じて、話し合った内容や作成した子ども宣言をどのように広めていくのかについて話し合いを進めた。また、２日目終了後に、子どもたちが作成した宣言の原案をもとに、幅広い年齢層に理解してもらえるような言葉選びを意識して取り組んだ。３日目は小学生から意見を聞くことができたこともあり、より理解しやすい宣言文に近づけることができたように思う。

本部での運営の様子（Zoom）

私は自身が参加した２日間の子ども会議を通じて、大きく三つのことを学んだ。一つ目は、グループワークの進行をサポートする上で大切なことについて、二つ目は、“自分ごと化”の大切さについて、三つめは、「小さなことからコツコツと」を意識し、行動に移していくことの重要性についてである。

一つ目は、グループワークの進行をサポートする上で大切なことである。学年・学校が様々で、一人一人の意見や思いを引き出すことが難しかった。高校生にばかり発表を任せるのではなく、中学生に発表の場ができるように心がけた。中学生が発表するときには、メモ用紙を同時に見せてサポートをすることで、スムーズに発表が進むよう工夫した。小学生から大学生、様々な年齢層との意見交換し、それぞれ異なる価値観を持ったことから、ESD で重視される「多様性」という見方ができると思う。またユネスコスクールで学んできたことを共有・お互いに尊重しあい、高めあったことから「相互性」を意識することができた。

二つ目は、“自分ごと化”の大切さである。この会議で終わりにするのではなく、自分自身が行動し、また家族・学校などの身の回りの人に発信していかなければならないと思った。考えるだけでなく、実際に行動する、という「責任性」に着目した見方を学んだ。

三つ目は、「小さなことからコツコツと」を意識し、行動に移していくことの重要性である。世界的な課題は自分一人では解決できない。日常生活の中で少し行動を意識するだけでもその一つ一つの行動が積み重なって大きな力に変わっていく。ただ SDGs の目標達成を考えるのではなく、周りの人を巻き込んで行動していきたいと思った。

両日ともに小学生、中学生、高校生、大学生という幅広い年齢での意見交流ができた。通っているユネスコスクールによって SDGs のどの目標に焦点を当てているかが異なるため、学校によって様々な視点からの意見を聞くことができた。今回学んだことを生かし、さらに ESD の学びを深めていきたい。

ユネスコスクールの仲間とともに

教育学専修１回生　中家　麻弥

2020 年 11 月 1 日、8 日、15 日にユネスコスクール子ども会議が開催された。子ども会議では、近畿地方各地のユネスコスクールに通う仲間がオンラインで集い、持続可能な学校・地域社会・世界づくりに向けた取り組みについて考えた。そして、最終日の 15 日には「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成した。

三日間の会議を通して、感じたこと、学んだことを三つ述べる。一つ目は話し合いや意見を交流することの大切さについて、二つ目は世界規模の問題を解決するために、私たちにもできることがあるということについて、三つ目はこの経験はこれから教師になった時に繋がるということについてである。

一つ目の、話し合いや意見を交流することの大切さについて詳しく述べる。子ども会議では、主に環境や貧困に関して、それぞれが課題だと考えていること、世界の状況やユネスコスクールの活動を知ってもらうために自分たちがするべきことなどについて、小学校から高校までの児童生徒と話し合った。学校によって行っている活動が違い、また一人一人の意見、考え方がそれぞれ違ったため、一つの問題に対して様々な角度から話し合うことができた。そのため、「そのような考え方もあったのか」と新しい発見があったり、みんなの地球の課題に真剣に向き合おうとする思いが伝わってきて感動したりと、多くの刺激を受けた。また、話し合いを通して ESD についてより理解が深まり、またユネスコの活動を広めるための具体的な意見を聞くことができ、多くを学ぶことができた。このようなことから、話し合い、意見を交流することの大切さを改めて感じた。

二つ目の、世界規模の問題を解決するために、私たちにもできることがあるということについて詳しく述べる。私は大学生になるまで、環境問題や貧困の問題は自分には解決できないような遠いことのように感じていたが、大学で ESD の授業を受けて、自分の行動が SDGs の達成に役に立つということを学んだ。そして今回の会議で、授業で学んだ知識を生かして現状の課題や自分たちができることについて話し合うことができた。具体的には、エコバックを持つことや節水することなどの日常生活の中でできること、また、ユネスコスクールだからこそできる活動の情報発信の方法などについて考えることができた。このように子ども会議を通して、授業で学ぶよりも自分たちにできる行動について具体的に考えることができたため、先ほど述べた点についてより実感できた。

三つ目の、この経験はこれから教師になった時に繋がるということについて詳しく述べる。子ども会議では、グループワークで小学校から高校までの児童生徒が入り交じり意見を交流した。そして私は、グループワークを円滑にするためにグループ内でのアイスブレーキングを企画し、話しやすい雰囲気を作ることや、最後までやり遂げることを経験した。またグループワークの進行も行い、一人一人の意見に耳を傾け意見をまとめる力や、問題が発生した時の対応能力を身につけることができた。このように子ども会議を通して、教師として子どもたちの前に立ったときに生かせることを経験することができた。

以上三つのことを、３日間の活動を通して感じ、学ぶことができた。上記で述べたように、多くを学ぶことができ刺激を受け、また実際に話し合いみんなの思いを知ることができたため、私にとってとても濃い経験になった。そして何よりも、子ども宣言作成に関わることができ、宣言という形あるものにみんなの思いを込めることできたことは、ユネスコクラブの一員として大変誇りに思う。

子ども会議の様子

３日間の子ども会議を終えて

教育学専修１回生　木下　結等

2020 年 11 月 1 日、8 日、15 日の３日間、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会のプログラムの一つ、ユネスコスクール子ども会議に参加した。この会議は、近畿地方各地のユネスコスクールに通う子どもたちが持続可能な学校・地域社会・世界づくりに向けた取り組みについて一緒に考え、それをもとに「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作ることを目的とした。

この報告書では、３日間の子ども会議を通して私が感じ、考えたことを三つ取り上げる。一つ目は子どもたちの力について、二つ目は司会・進行をする難しさについて、三つ目は仲間たちとの協力についてである。

一つ目は子どもたちの力についてである。今回の会議では小学生から高校生まで幅広い年齢の子どもたちが参加していた。会議の中では年齢に関係なく、自分たちが今抱えている課題、その課題を解決するためにできることについて話し合った。子どもたちは日常生活や学校での取り組みの中で、日々感じていることについて積極的に話したり、相手の意見に対して自分自身の考えから疑問点や感想を述べたりしていた。今回の会議では終始、自分たちで何かできることはないかと考え、アイデアを出し合おうと必死に取り組んでいる子どもたちの力を感じることができた。

二つ目は司会・進行をする難しさについてである。今回の会議では大学生が司会・進行をする機会が多かった。限られた時間で子どもたちの意見を聞き、まとめることが司会・進行の役目である。しかし、私が司会・進行を務めた時には滞りなく行うことができなかった。グループディスカッションに慣れていた生徒に何回も意見や感想を求めてしまったり、時間内に話をまとめることができなかったりした。改めて、司会・進行の大切さと難しさを痛感した。

子ども宣言作成後の記念写真

三つ目は仲間たちとの協力についてである。私にとって今回の活動はとても有意義なことばかりではなく、失敗も多く経験した。二つ目のところで少し触れたが、事前に準備していたことを忘れてしまったり、司会・進行がうまくいかなかったりした。しかし、同じユネスコクラブの同級生や先輩方がフォローしてくれた。また、子ども宣言を編集しているときも、編集する一人一人がそれぞれの役割を担いながら自分のできることに取り組み協力し合うことができた。今回の会議で採択された子ども宣言の中でも、「課題の解決は一人では出来ません。私たちは仲間をつくり、仲間を広げ、仲間とともに行動します。」とあったように、仲間たちの協力があったからこそ自分一人だけでは出来なかったことを乗り越えていくことができた。このような仲間たちの協力の大切さについて今回の会議を通して改めて気づくことが出来た。

今回の参加は私にとって、子どもたちは、私たちが思っている以上に身近な問題に目を向けて、何か行動を起こそうとしていることを教えてくれた。また、自分自身ももっと成長していかなければならないと気づかせてくれた貴重な経験となった。このような貴重な経験を今回の会議で終わりにしてしまうのはもったいないと思う。この会議で学んだこと、感じたことを多くの人に伝えていくことで、これからの活動に役立てていきたい。

近畿ユネスコスクール子ども会議を通して

特別支援教育専修１回生　西田　有佳里

2020 年 11 月 1 日・8 日・15 日、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会が開催された。各日とも午前中に、近畿地方各地のユネスコスクールに通う小学生から大学生の 99 名を Zoom でつなぎ、３日間を通して「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成する会議を行った。また、15 日には「ユネスコスクール子どもフォーラム」も実施された。そこでは、近畿地方各地のユネスコスクール７校の各校における取り組みをまとめた動画を視聴し、それに対しての質疑応答や意見交流が行われた。

私は、この大会への参加を通してたくさんのことを学び、感じることができた。本報告書ではその中の三つのことについて取り上げる。第１にオンラインで会議を進める難しさについて、第２に宣言を作ることの難しさについて、第３に多様な人と交流することの面白さについてである。

第１のオンラインで会議を進める難しさについてであるが、ネット環境の影響で声が聞こえない、画面がフリーズしてしまうといった通信機器のトラブルだけでなく、対面に比べ時間の制約が多い、全員に意見を聞くことができないといった議論におけるトラブルも見られた。また、2020 年度前期授業がオンラインで行われていた大学生に比べ、小学生から高校生は慣れない部分が多く、戸惑っている様子も見られた。対面での実施に比べ、オンラインで会議を行うには配慮すべき点が多く、オンラインで会議を進めることの難しさを実感した。

第２の宣言を作ることの難しさについてだが、事前に宣言作成のために募集した 337 枚の作文等を集約し土台を作り、８日の子ども会議Ⅱ、15 日の子ども宣言作成会議終了後に、奈良教育大学ユネスコクラブで、宣言完成に向けて作業を行った。「ユネスコスクール子ども宣言」を近畿各地の子どもたちの意見を取り上げ、みんなの思いが一つの宣言にまとまるように手助けをした。また、小学生から大学生、大人にまで分かりやすい宣言を作成するために言葉一つ一つにまでこだわった。より分かりやすい表現や言葉を選び続ける作業には長い時間がかかり、多大な労力を費やした。言葉の選択、表現で何度も困難に直面し、一つの宣言文を作成することはとても難しいと痛感した。

第３の多様な人と交流することの面白さについてだが、この会議では、小学生から大学生までの 99 人が交流を通して、自分たちが取り組んでいること、課題だと思っていることを話し合った。各学校の所在する地域や年代、置かれている状況等が異なり、課題だと思っていること、取り組んでいることも異なっていた。しかし、みんなが課題解決のために、自分たちのできることを仲間とともに取り組み、取り組みを発信したい、みんなで課題を解決したいという思いを持っていた。交流を通して互いに高め合い、学び合っていることが感じられた。また、たくさんの視点から、課題に対するアプローチを知ることができ、多様な人と交流することの面白さが感じられた。

子ども宣言作成会議の様子

私はこの大会への参加を通して、ESD・SDGs についての理解を深めるだけでなく、課題に対して取り組む姿勢、子どもたちと関わる上で意識しなければならないこと等のたくさんの学びを得た。「近畿ユネスコスクール子ども宣言」にもあるように、課題を解決するために仲間を作り、仲間を広げ、仲間とともに行動したい。さらにこの大会での学びをこれからの活動に活かしていこうと思う。

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会を通して得たもの

書道教育専修１回生　池田　千晴

2020 年 11 月１日・８日・15 日の３日間に亘り ZOOM を繋いで行われた、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会に、奈良教育大学からユネスコクラブの仲間と共に参加した。各日の午前中には、近畿ユネスコスクール子ども宣言を作成することを目的とした『ユネスコスクール子ども会議』が行われ、近畿地方のユネスコスクールに通う小学生から大学生までの 99 名が参加する規模の大きいものとなった。また 15 日には、『ユネスコスクール子どもフォーラム』が行われ、近畿地方にあるユネスコスクール７校の各校における取組みをまとめた動画を視聴し、児童生徒が意見を交流した。

事前打ち合わせとこの３日間を通して私はたくさんのことを学び、考えた。この経験から感じたことを三つの観点からまとめて報告書とする。一つ目は ESD の学びから考えさせられた、自分が目指している教員という仕事の責任について、二つ目はオンラインで行うことの難しさから気づいた、自分に足りない力について、三つ目はみんなで一つの宣言を作る事の難しさについてである。

一つ目は ESD の学びから考えさせられた、自分が目指している教員という仕事の責任についてだ。私は大学の授業で初めて SDGs という言葉を知り、勉強を始めた。そんな私にとって小学校から高校までの幅広い校種で行われている SDGs に関する学習について知り、交流出来たことはとても貴重であった。将来、学校に勤務して ESD を実践する時に役立つと感じた。またグループワークの中で学ぶことも多く、特に印象的だったのは同じグループにいた高校生の発言だ。ユネスコスクール以外の人に発信する方法について話し合いをした際に、彼から学校の授業によって発信することが出来るため、教育が重要であるという意見が出た。この言葉は私の心にとても響き、ただ勉強を教えることが目的ではない、自分ごと化して解決に向かおうとする力を養うことが大切であると考えさせられた。

二つ目はオンラインで行うことの難しさから気づいた、自分に足りない力についてだ。発言している人の声が聞こえなかったり、画面が固まったりといった情報機器のトラブルが起きることで会議が度々中断されることがあった。また授業でパソコンを使う大学生に比べて小学生や中学生は情報機器に慣れていない様子で、情報機器の調子が悪くなることがあった。中には一つの画面に複数人で参加している学校もあり、グループワークを進めることは難しかった。コロナウイルス感染拡大の影響で、これから様々な場面でオンラインによるグループワークをする機会が増えてくることが考えられる。何かトラブルが起きても臨機応変に対応する力や、周りを見る力が大切であると感じた。

三つ目はみんなで一つの宣言を作る事の難しさについてだ。事前に募集した 337 枚の作文や俳句等を基に宣言の土台を作る事前作業を行い、その土台を基にこの子ども会議を進めた。その中でみんなの意見を集約することの難しさや、土台を作ることの難しさを感じた。最終日に奈良教育大学ユネスコクラブで宣言の完成を目指したが、思っていた以上に誰が読んでも自分たちの伝えたいことが伝わる宣言文を作るのは難しかった。ユネスコスクールみんなの意見を宣言文に取り入れてまとめる内容的な難しさだけでなく、小さい子どもから大人までが分かる文章にする言葉選びの難しさを知った。

今回の活動を通して ESD・SDGs についての知識や自分の考えが深まることだけでなく、自分の目指す教員の姿がより鮮明になった。会議で関わった子どもたちの学ぼうとする姿勢から、子どもたちへかける言葉選びや、それぞれの個性と大切にすること等、たくさんの課題が見つかった。これから２回生になり、子どもたちと関わる機会も増える中で、一つ一つ自分の見つけた課題に向き合い、目指す教員の姿に近づきたい。

子ども会議の様子

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会を終えて

教育学専修１回生　川西　良海

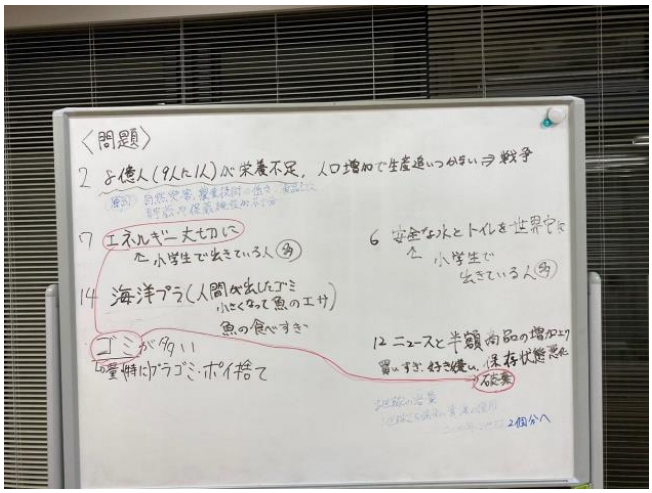
2020 年 11 月 1 日、８日、15 日に「ユネスコスクールオンライン近畿地方大会」のプログラムの一つである「ユネスコスクール子ども会議」が実施された。私は、第３回目である 15 日に実施された会議に参加した。この会議は、ESD に取り組んでいる近畿地方の学校に通う子どもたちが、持続可能な社会の実現へ向けた活動について意見交流を行い、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成するものである。私を含むユネスコクラブの参加部員は、本会議の運営・進行を行った。それに加え、参加校の子どもたちが事前に作成してくれた 337 枚の作文を基に、子ども宣言を編集する作業も行った。

この報告書では、15 日に行われたユネスコスクール子ども宣言作成会議を終えて、私が感じ考えたことについて、三つの項目に分けて述べようと思う。一つ目は「何かを作り上げることの難しさ」で、二つ目は「考えに触れることの大切さ」、三つ目は「ESD から考える教育」である。

まずは、一つ目の「何かを作り上げることの難しさ」について述べる。自身が３回目から参加したこともあって、宣言文はほとんど完成しており、後は文章の修正や使用する文言の変更等、細かな作業が主となった。しかし、個人的にはこの作業が最も難しいように感じた。なぜなら、この宣言において最も重要なのは、「誰が読んでも内容が簡単に理解出来る文章にする」ことだからだ。編集する私たち自身にとって理解しやすい文章を作ることが出来ても、第三者が閲覧した時に簡単に理解出来るとは限らない。また、誰にでも伝わる言葉を選択するとなると、使用する言葉の種類にもある程度制限がかかってしまう。これらについて部員たちと話し合い、宣言作成にあたったことを通して、私はこの経験こそが、教員になった時に必要とされるものなのではないかと考えた。誰にとっても分かりやすい伝え方が出来なければ授業も一方的なものになってしまうのは、教育でも同じだ。今回の活動は、将来教員を目指す者としても、伝えることの大切さに気付くことの出来た良い経験となった。

次に、二つ目の「子どもの考えに触れることの大切さ」について述べる。今回は様々な学年・様々な地域に住む子どもたちが参加していたため、共有された意見やそれに対する質問の内容にもそれぞれ違いがあり、自分になかった考え方に触れることもあった。一人で物事を考えると、どうしても考えが偏ってしまったり、気付くべきことに気付けないままになったりすることもある。故に今回は意見交流の大切さを再認識した。

最後に、三つ目の「ESD の視点から考える教育」について述べる。今回の会議における意見共有の中では、ユネスコの教育システムや ESD の中で実地体験や自然体験活動を行っていたものも多く挙げられていた。ESD やユネスコという教育の枠組みから、実際に体験し学ぶことの重要性や授業の際に工夫することの必要性について学び直せたと思う。



宣言作成の際に出たアイデア

会議の運営、宣言の編集等、今回の活動の作業は、どれも私にとって初めて行うものばかりだった。先述したような新鮮な学びがたくさん得られたが、意見のまとめや発表等、いくつかうまくいかなかった部分もあった。学べたことが多かった一方で、今後の課題もたくさん見つけることも出来たため、今回の活動を忘れず、ユネスコクラブの活動や大学の講義にも役立てていきたい。

初めての活動で学んだこと

国語教育専修１回生　市川　真里瑛

2020 年 11 月 1 日、8 日、15 日に、ユネスコスクール子ども会議が開催された。この会議では、近畿地方各地のユネスコスクールに通う仲間がオンラインで集い、持続可能な学校・地域社会・世界づくりに向けた取り組みについて一緒に考え、15 日には「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成した。

私は、15 日の第３回ユネスコスクール子ども宣言作成会議及び子ども宣言編集作業に参加した。その経験から学んだこと・感じたことを三つ述べる。一つ目は行動してみることの大切さについて、二つ目は意見共有の重要性について、三つ目は切り替えの大切さについてである。

一つ目の行動してみることの大切さについては、会議全体を通して感じることができた。私は今までユネスコクラブの大きなイベントに参加したことがなく、今回の会議が初めての参加であった。今までは「イベントの運営なんてやったことがないし私にはできない」と考え、失敗を恐れて様々な活動に参加できずにいた。今回の会議は、第１回から参加していた友達に誘ってもらったおかげで参加することができた。参加の申し込みをした後も、始まるまでは不安な気持ちが大きく、本当に大丈夫だろうかと心配だった。しかし、いざ始まってみると、楽しいアイスブレーキングや参加者の皆さんの素晴らしい発表などで緊張は解け、すぐに「参加してよかった」と感じた。途中どうすればよいか迷うこともあったが、先輩や周りの友達の行動を見ているだけでは何も始まらない、思い切って行動してみることで気がつくこともたくさんあるのだと知り、まずは行動してみることの大切さを改めて感じた。

二つ目の意見共有の重要性については、本会議、子ども宣言編集作業両方の時間を通して感じた。まず、各学校の代表者の発表動画を視聴し、自分では考えつかないようなアイデアをたくさん知ることができた。その後の講評や感想共有などの時間でも、自分とは違った意見を聞くことができ、良い勉強になった。年齢や住んでいる場所が違う様々な人が集まった会議だからこその意見もたくさんあり、共有することで考えが広がるということを学んだ。また、そのあとの子ども宣言編集作業は、それぞれの意見を出し合うことはもちろん、考えが行き詰ったときに周りで見ていた先輩方からの客観的な意見を聞くことで話し合いが進み、いろいろな人の意見を聞くことが大切なのだと感じた。

三つ目の切り替えの大切さについては、特に編集作業を通して感じた。私は比較的集中が続かないタイプで、誰かが楽しい話を始めると、話し合いのことを忘れてその話に夢中になってしまうことがある。今回の編集作業における話し合いの中でも、何度か話が逸れてしまうことがあった。今までの私なら、逸れた話のまま何十分もおしゃべりに夢中になってしまっていたが、今回の話し合いでは、途中で「話が逸れている」「あと十分したら休憩時間にするからそれまで頑張ろう」と声掛けをしてくれる人がいたのため、途中でだらけてしまうことなくスムーズに話し合いを進めることができた。みんなの切り替えのきっかけを作ってくれたその友人を見習って、次からは自分で気持ちを切り替えられるようにしたいと思った。

今回のユネスコスクール子ども宣言作成会議及び子ども宣言編集作業に参加して、いろいろな人の良いところ、見習いたいと思うところを見つけることができた。今回見つけたこと、気がついたこと、学んだことをほかの活動でも生かせるように、様々な活動に参加してみたいと思う。

子ども会議の様子

SDGs の達成に向けた奈良教育大学・ユネスコスクールの新たな挑戦

英語教育専修　修士１回生　谷垣　徹

2020 年 11 月、３週間にわたってユネスコスクールオンライン近畿地方大会が開催され、その午前中には近畿地方各地のユネスコスクールで学ぶ児童生徒を対象とした、ユネスコスクール子ども会議、また最終日にはユネスコスクール子どもフォーラムが行われた。前者では小学校から大学まで、のべ 99 人が参加し、それぞれの関心のある課題を共有し、持続可能な社会づくりに向けた「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成に取り組んだ。後者では同じく 72 人が参加し、各学校での ESD の取り組み・学習の成果を発表しあい、活発な意見交換がなされた。

私は本プログラムにおいて、全体司会進行と機器運営担当を務めた。本プログラムへの参画を通して私自身が学んだことを、以下の３点から振り返りたい。第１にオンラインを活用した学び・交流の可能性、第２に日々のアップデートの必要性、第３にユネスコクラブの学生の成長である。

第１にオンラインを活用した学び・交流の可能性である。これまで奈良教育大学・近畿 ESD コンソーシアムでは、同様のプログラムを大学キャンパスにて対面形式で開催していた。今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、オンラインでの開催に踏み切った。初めてのオンライン開催ではあったが、例年のプログラムをオンラインに落とし込むのではなく、オンラインだからこそできることを追求し、このプログラムに仕上がった。進行上、オンラインならではの難しさを感じることは多かったが、オンラインでも校種を超えた子どもたちの相互の学び合いの場を作ることができた。

第２に日々のアップデートの必要性についてである。国連 ESD の 10 年（DESD：2005-2014）の後継プログラムである「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP：2015-2019)」が終わりを迎え、2019 年の第 74 回国連総会で「ESD for 2030」が採択された。SDGs の最終年度である 2030 年に向けて、ユネスコスクールは世界の ESD を牽引する存在でなくてはならない。そこで本会議では、持続可能な社会づくりと SDGs の達成に向けて、ユネスコスクールの仲間として自分たちにできることを話し合い、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」にまとめた。検討材料として DESD の最終年、2014 年に採択された「ユネスコスクール世界大会 Student（高校生）フォーラム共同宣言」を取り上げた。議論の中で、当時と比べて私たちが暮らす地球が抱える諸課題はより緊迫感を持っていて、その解決には私たち一人一人の行動変容が欠かせないという意見が出た。参加者みんなで作成した宣言は、まさにそのためのアクションプランとなっている。私が ESD と出会ったのはまさに 2014 年。あれから 6 年が経ち、日々変わりゆく世界に、自分自身もアップデートし続けないといけないと感じた。

第３にユネスコクラブの学生の成長である。本プログラムの進行は、ユネスコクラブの学生が中心になって行った。子ども宣言作成に向けて事前に募集した作文の分析から当日のプログラム運営、事後の子ども宣言編集作業までを担当した。そして驚くべきことは、彼らの大多数が今年入学したばかりの 1 回生だということだ。今年は新型コロナウイルス感染症による長期の休校から始まり、前期はキャンパスへの入構ができず、例年とは全く違った学生生活を強いられた。そんな状況下でも彼らはオンラインでの学習に取り組み、ESD 関連のセミナーや講演会に積極的に参加してきた。「ユネスコクラブの学生は、活動は活発だが、ESD の理論的な学びが弱い」とよく言われる。私自身もそう感じている。しかし今年は変革のチャンスかもしれない。理論的な学びがあっての活動。のびのび活動ができない今の期間にたくさん本を読み、自分なりの ESD を確立し、活動が本格始動したときに理論的な学びに裏打ちされた活動ができるユネスコクラブであってほしいし、最上級生としてそのための手助けをしたい。

本大会の開催にあたってご尽力いただいたすべての方々と、参加してくださった児童生徒・先生方への感謝の意を表し、この学び・経験を今後に生かしたい。

コロナ禍における災害復興支援の可能性
―ユネスコスクールの繋がりを活かして―

狗飼　菜々子・谷垣　徹・佐藤　こころ（奈良教育大学ユネスコクラブ）

Ⅰ　はじめに―ユネスコクラブと災害復興支援

本団体は2011年７月に活動を開始した学生団体で、ESDを実践できる教員になることを目的に、ESD-SDGsに関する勉強会、他大学学生や地域活動団体等との多様な連携事業、ユネスコスクールを中心とした学習支援や子ども向けイベントの企画運営等に取り組んできた。また、東日本大震災をきっかけに、災害復興支援にも取り組んできた。東日本大震災で被災された岩手県陸前高田市へは毎年、陸前高田市文化遺産調査団として学生を派遣し、文化財保護調査および防災教育調査、教材開発を行ってきた。2018年に発生した西日本豪雨災害においては、その発災直後に災害復興支援ボランティアチームを立ち上げ、岡山県倉敷市および岡山市でのボランティア活動に13回、計64名の学生が参加した。

Ⅱ　コロナ禍における災害復興支援の始まり

2020年７月に九州地方で豪雨が発生し、九州各地で甚大な被害をもたらした。今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、遠方からのボランティアの受け入れがなされず、人手不足に陥っていた。本団体も現地へボランティア活動に駆けつけることが出来ず、遠方からでも出来る支援がないかと、企画チームを立ち上げた。ユネスコスクールのネットワークから、学校が被災した大牟田市立みなと小学校と繋がることができ、ニーズ調査をし、まずはユネスコクラブ学生有志によるメッセージ動画の作成から取りかかった。

Ⅲ　オンラインでの学習支援

みなと小学校の先生からのご提案で、オンラインでの学習支援を行うこととなった。新しく立ち上げられた「みなとESDすすめ隊！」の児童らと、Zoomを用いたオンライン交流を開始し、初回はユネスコクラブから奈良という地域について、クイズを交えながら紹介した。児童らが自分たちの身近な地域を題材に活動に取り組む際の、地域を見る視点の手助けとなるよう、紹介の仕方を工夫した。今後も継続したオンラインでの学習交流を予定している。

みなと小学校へのメッセージ動画

Ⅳ　まとめ

奈良教育大学ユネスコクラブは創設当初より継続的に災害復興支援に取り組んできた。令和２年７月豪雨で被災された大牟田市立みなと小学校へ、オンラインでの学習支援を開始した。現地で直接的に支援するだけでなく、遠方からでも出来る災害復興支援のあり方を見つけることが出来た。ユネスコスクール・ESD の繋がりを大切にして、今後も継続的に関わっていきたい。

令和2年度文部科学省委託事業
「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」
ユネスコスクールオンライン近畿地方大会
【本大会】実践交流会Ⅲ　第1分科会

コロナ禍における災害復興支援の可能性
ーユネスコスクールの繋がりを活かしてー

2020年11月15日（日）@Zoom

奈良教育大学ユネスコクラブ
狗飼　菜々子、谷垣　徹、佐藤　こころ

奈良教育大学
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION

奈良教育大学ユネスコクラブ

ESDを実践できる教員になる

ESDを楽しく追究する

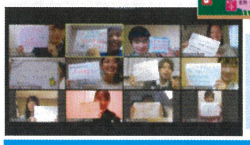
顧問 ： 中澤静男先生
代表 ： 狗飼菜々子
誕生日 ： 2011年7月29日（**今年で10年目！**）
部員数 ： **105名**（**新入生35人**を含む）
定例活動 ： 昼食会（毎週水曜日お昼休み）
＋年間を通じて不定期な活動が多数

定例昼食会

【Beforeコロナの活動】
- ESDティーチャー「**ESD演習**」
- 学生企画「**ESD実践勉強会**」
- 自主企画「**ユネスタディー**」

年間を通じて様々な勉強会に参加！
＆自ら勉強会を企画！

ワークショップ
「**新型コロナウイルス感染症とわたしたち**」



開発教育協会の教材を使用
アレンジして
2日間で実施

ユネスコクラブ防災企画

地震や水害などの災害に対して、
自分ごととして考える
教員の立場で考える
新入生にも考えるきっかけを

11月28日（土）14:00～　対面で実施予定

【Beforeコロナの活動】
- **ユネスコクラブ全国サミット**
- **合同スタディーツアー**

ESD・ユネスコ活動に取り組む
他大学・団体と、毎年継続して交流
ワークショップ・スタツアを共同立案

第7回ユネスコクラブ全国サミット
@オンライン開催

玉川大学	慶応義塾大学	広島大学	福山市立大学	奈良教育大学
9人	7人	4人	11人	16人

- 全国**5大学**から**47人**が参加
- **事前学習3回＋サミット本番の4回構成**
- テーマ　**ユネスコスクールに向けたSDGsワークショップを作ろう** ～持続可能な社会づくりを担う未来の地球市民育成を目指して～

【Beforeコロナの活動】
- 子どもとESDを体験的に学び合う企画

「集まれ！ESD子ども広場」
- 地域や学校での**ESD活動支援**

昨年度支援実績　52件　277人参加

野外活動支援　東大寺寺子屋　世界遺産学習フィールドワーク
ICT支援　子ども会議・サミットファシリテーター　など

- コロナ禍の子どもたちに届けたい学び
- 子ども企画に対する学生の想い

➡学生間で何度も協議

ユネスコスクール子ども会議
ユネスコスクール子どもフォーラム

近畿各地のユネスコスクールの児童生徒を対象
近畿2府4県　**7校から児童生徒が参加**
事前に**作文**を募集　**11校337枚**を分析

子ども会議Ⅰ	11月1日（日）10:00～12:00
子ども会議Ⅱ	11月8日（日）10:00～12:00
子ども宣言作成会議	11月15日（日）11:00～12:30
子どもフォーラム	11月15日（日）9:30～11:00

SDGsの達成、持続可能な社会の実現のために
ユネスコスクールの私たちができることは？
➡「**近畿ユネスコスクール子ども宣言**」

奈良教育大学ユネスコクラブと災害復興支援

◆ ESDを実践する次世代教員として「防災・減災教育」への関心は重要課題

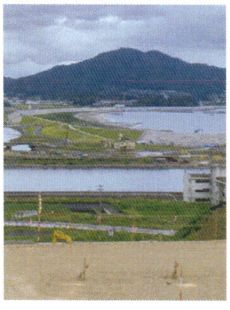
学生対象の
ESD防災教育勉強会・
ワークショップ

子ども向けイベント
「ESD子どもキャンプ」
「集まれ！ESD子ども広場」
防災をテーマに

地域住民対象の
防災啓発イベント
シンポジウム企画

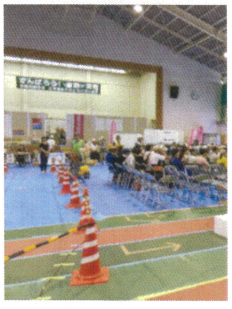
被災地での災害復興支援

2011年　東日本大震災
陸前高田市文化遺産調査団



2011年　台風12号
紀伊山地の霊場と参詣道　道普請

2018年　西日本豪雨
倉敷市・岡山市ボランティア



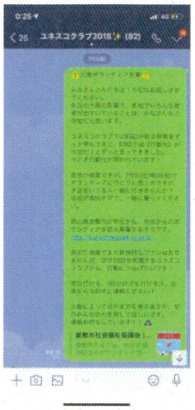
今こそ行動化が問われる！

7月13日（金）
ユネスコクラブのグループLINEで始めての呼びかけ

ユネスコクラブではESDや防災教育をずっと学んできて、ESDでは«行動化»が大切だ！とずっと言ってきました。今こそ行動化が問われています！

【倉敷市社会福祉協議会】
7月14日（土）から、市外からのボランティアの受付を開始

【第1隊】**7月15日（日）** 2人
【第2隊】**7月16日（月祝）** 4人 **倉敷市真備町**へ

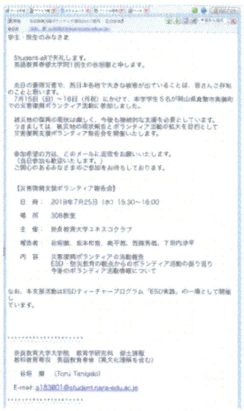


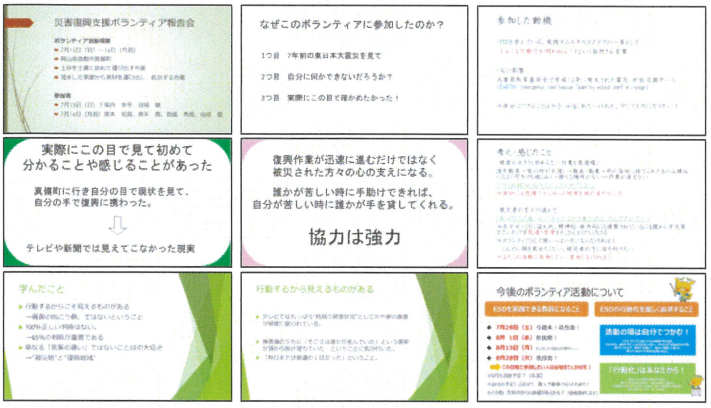
奈教生にもっと知ってほしい！
災害復興支援ボランティア報告会

あれからもう2週間以上経
もう岡山は復興してるんじゃない？
レビでも全然道されてない。
復興は**まだまだ**！
被災地の**現状**を！
「**行動化**」を広げたい！

第1隊・第2隊の参加メンバーが、現地で感じたこと・学んだことを発表

継続した支援の必要性 今後の活動を呼びかけ





ユネスコクラブから広がる！
復興支援活動の広がり

これまでに合計13回 のべ64人が活動に参加！

第1隊	2018	7/15(日) @倉敷市真備町	2人	
第2隊		7/16(月祝)	4人	
第3隊		7/28(土) @岡山市東区	6人	➡7/25(水) 災害復興支援ボランティア活動報告会
第4隊		8/1(水)	4人	
第5隊		8/13(月) @倉敷市真備町	3人	
第6隊		8/28(火)	4人	
第7隊		9/2(日)	4人	
第8隊		9/6(水)	3人	
第9隊		9/23(日)	4人	
第10隊		9/25(火)	4人	
第11隊		10/21(日)	4人	➡12/1(土) 被災地ボランティアシンポジウム
第12隊	2019	8/18(月)	4人	
第13隊		12/7(土)～8(日)	18人	※倉敷ボランティアスタディーツアー

被災地ボランティアシンポジウム

- ボランティア活動の成果、学びの発信
- ボランティア団体、教職員災害復興支援チームの方を招聘
- 東日本大震災の被災体験談

作業内容
- 浸水した家屋から土砂の掻き出し
- 家財道具の搬出
- 家屋内外の清掃
- ニーズ調査
- 写真洗浄

成果と学び
- 復興の一助に
- 学生の防災・減災意識の高まり
- 人とのつながり、温かさ
- 「ありがとう」「また来てね」
- 助ける側、助けられる側？

令和2年7月豪雨発生
「私たちができることは？」➡ チーム結成

- ESDを実践する、私たちがまず「行動化」しなければ！
- 県外からのボランティアの受け入れなし➡現地には行けない
- コロナ禍の今、私たちができる・必要とされている支援は？

- 義援金を集める
- 支援物資を送る
  （生活必需品、学用品など）
- オンラインボランティア

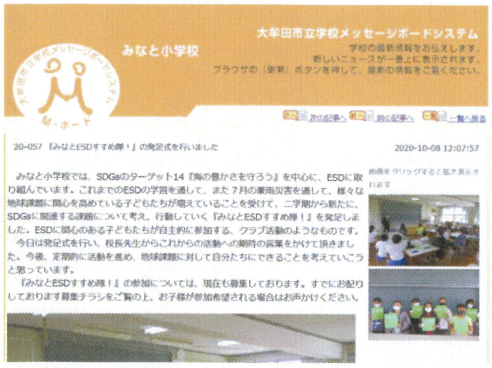
・・・など

相手がある、顔の見える支援をしたい

被災したユネスコスクールは？
➡ **大牟田市立みなと小学校**と繋がる

みなと小学校のみんなに届け！
メッセージ動画作成

奈良教育大学ユネスコクラブ
公式YouTube
みなと小学校ホームページで公開中！



大牟田市立みなと小学校　ホームページより
http://www2.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/mboard/minato/kiji.php?seq_no=30496

先生とのやり取り学習交流会へ

大牟田市立みなと小学校

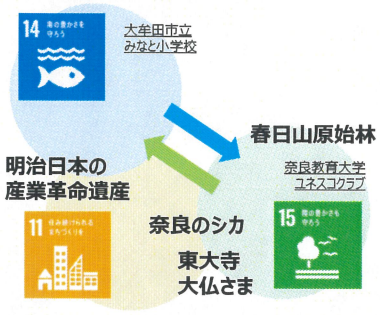
- **ESD・海洋教育**
- SDG14『海の豊かさを守ろう』
- ESDに関心のある児童「**みなとESDすすめ隊！**」を発足
- **27名**の児童が所属

Zoomを用いたオンラインの学習交流会をスタート！

大牟田市立みなと小学校　ホームページより
http://www2.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/mboard/minato/kiji.php?seq_no=30570

奈良教育大学からみなと小学校へ

第1回交流会の内容



交流を通しての学生の学び

- **行動化**の大切さ
- 地域の題材を**見つける視点**
- 地域の題材を**見る視点**
- 子どもへの**伝え方**の工夫
- **子ども理解**

まとめ

ユネスコクラブの災害復興支援活動

- 東日本大震災　陸前高田市文化遺産調査団
- 台風12号　紀伊山地の霊場と参詣道　道普請
- 西日本豪雨　倉敷市・岡山市ボランティア

コロナ禍での災害復興支援

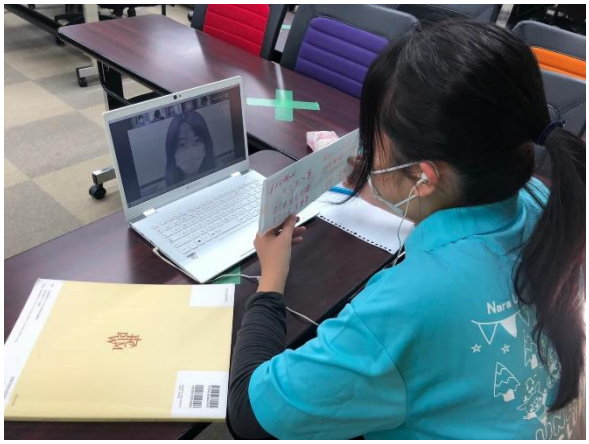
- 現地でのボランティア活動ができない
- 相手のある、顔の見える交流がしたい
- ユネスコスクールの繋がりで大牟田市立みなと小学校と繋がることができた
- 現地のニーズを確認し、メッセージ動画を作成

オンライン学習交流会

- 第1回　ユネスコクラブから奈良の紹介
- 地域の題材（春日山原始林・東大寺など）を工夫して紹介した。

今後の展望

- みなと小学校との継続的な交流
- 学生間での防災・減災に関する勉強会の実施
- 自身の災害に対する備え
- 有事の際にすぐに行動できる体制の構築



令和２年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会

ユネスコスクール子ども会議・ユネスコスクール子どもフォーラム
実施報告書

2021 年 3 月 31 日　発行

奈良教育大学ユネスコクラブ

発行者：谷垣　徹、狗飼　菜々子、後藤　旭、佐藤　こころ

〒630-8528　奈良市高畑町

奈良教育大学　中澤静男研究室